

令和 3 年度使用  
中学校教科用図書調査研究答申

山県教科用図書採択地区選定委員会

# 目 次

国 語	1
書 写	5
社会（地理的分野）	8
社会（歴史的分野）	10
社会（公民的分野）	14
地 図	17
数 学	18
理 科	28
音楽（一 般）	31
音楽（器楽合奏）	32
美 術	33
保健体育	36
技術・家庭（技術分野）	39
技術・家庭（家庭分野）	42
英 語	45
特別の教科 道 徳	47

令和3年度に義務教育諸学校で使用する教科用図書採択に係る答申

山県教科用図書採択地区選定委員会

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	国語
第1推薦	38 光村
第2推薦	2 東書

(中学校：国語) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
2 東書	観点1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の初めに目標を「問いかけ」で示し、終わりの「てびき」の部分に目標を示している。</li> <li>・新出漢字は371字で、脚注に行数と音訓のみを、巻末にページ数、音訓、部首、画数、筆順、用例を示している。</li> <li>・情報の扱い方に関する事項としては、各学年とも、情報活用に関する単元を設定し、1作品を掲載している。各学年とも、資料編に情報活用に係る教材を掲載している。著作権は1・2学年で扱っている。</li> <li>・読書単元は、「読書への招待」3回を設定し3作品を、資料編に2作品を掲載している。書籍紹介数361冊。</li> </ul>
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決的な学習を実施するための工夫として、1学年「書く」では「調べて分かったことを伝えよう『食文化』のレポート」で、「食文化」について個人テーマを決め、情報カードに記録して整理した後、調べてわかったことをレポートに書く活動を取り上げている。</li> <li>・「話すこと・聞くこと」「書くこと」を取り扱うページを上下2段に分け、上段に学習の流れ、下段に具体的な例などを示している。</li> <li>・3学年「観察・分析して論じよう『ポスター』の批評文」では、参考資料(広報誌)、批評の対象例(ポスター数3)、観察・分析のメモ例、批評文の完成例(数2)、問題(新聞記事、ポスター数3)が示されている。</li> </ul>
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「本編」と「基礎編」,「資料編」の3部からなる。</li> <li>・「本編」は、各学年7単元で構成している。</li> <li>・「言葉の特徴やきまり・情報の扱い方・漢字・読書」の3年間合計ページ数が316ページ、また、「書くこと」のページ数は71ページとなっている。</li> </ul>
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学年説明的な文章において文章と図表との関連について考えさせる教材は、3教材19ページ掲載されている。図表等は3種類7点。</li> <li>・巻末の「学びを支える言葉の力」では、言葉の力を「論理的な言葉の力」「文学的な言葉の力」「対話的な言葉の力」の3項目6種類に分類し、学年に応じて系統的に24ページと折込4ページで示している。総ページ112。</li> </ul>
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「話すこと・聞くこと」の学習では、全学年3単元ずつ設定してあり、全学年「聞く」「話す」「話し合う」の順番で構成されている。</li> <li>・考えを伝えるなどして話し合う活動の工夫では、「話し合いで深めよう『グループディスカッション』」において、身の回りの良さについてグループで良さを出し合い、分類することを通して共通の良さを見つけ、お互いの発言を結びつけ、グループの考えを適切な一言にまとめる活動が取り上げられている。</li> <li>・言語活動充実の手立てとして、資料編に「話すこと・書くこと題材例」や「発想・整理の方法」の解説がある。</li> </ul>

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
15 三省堂	観点1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の初めと、終わりの「学びの道しるべ」の部分に目標を示している。</li> <li>・新出漢字は、427字で脚注に行数と本文中の読みを、教材末にページ数、音訓、用例を、巻末に「〇年生で学ぶ漢字字典」としてページ数、音訓、中学で学ばなくてもよい音訓、部首、画数、筆順、用例を示している。</li> <li>・情報の扱い方に関する事項については、各学年とも、「情報を関係づける」という単元を設定し、資料を2つ掲載するとともに、各学年とも、資料編に「情報を活用する」とし「情報探しの方法」「引用と著作権」を掲載している。</li> <li>・読書単元「読みを深め合う」を設定し、詩と小説2作品を掲載し、関連して「ブッククラブ」などの読書活動を示している。資料編の前に「読書の広場」として古典作品を掲載している。書籍紹介数 285冊</li> </ul>
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決的な学習を実施するための工夫として、1学年「書く」では、レポート「調べたことを整理してわかりやすくまとめる」で、課題を身近なもの等から決め、情報カードに記録して整理した後、レポートの形式で書く活動を取り上げている。</li> <li>・「話すこと・聞くこと」「書くこと」の多様な方法の説明が最初に示してある。</li> <li>・学習に必要な力が、「思考の方法」や「語彙を豊かに」で示されている。</li> </ul>
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「本編」と「資料編」の2部からなる。</li> <li>・「本編」は、1・2学年が9単元、3学年が8単元で構成している。</li> <li>・「書くこと」の3年間合計ページ数は71ページとなっている。</li> </ul>
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学年説明的な文章において文章と図表との関連について考えさせる教材は、3教材18ページ掲載されている。図表等は3種類8点。</li> <li>・巻末「読書の広場」では読み物教材が5編、29ページ掲載されている。「社会生活に生かす」では、メモの取り方など生活で使う具体例を10ページ示している。「学習用語辞典」として6ページ掲載している。総ページ128。</li> </ul>
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「話すこと・聞くこと」の学習では、全学年「話すこと・聞くこと」が3単元ずつ設定し、全学年1単元目は「グループディスカッション」を設定している。全学年情報教材「複数の情報を関連づけて考えをまとめる」を設定しテーマは全て別となっている。また、全学年「読書活動」で本に関して自分の考えを伝える活動を掲載している。</li> <li>・考えを伝えるなどして話し合う活動の工夫では、各学年の第1単元に「グループディスカッション『話題や展開にそって話し合いをつなげる』」において、「話し合いのこつ」を意識してグループで話し合ったり観察し合ったりし、効果的だった「話し合いのこつ」について話し合いを振り返る学習活動が取り上げられている。</li> <li>・言語活動充実の手立てとして、資料編で、思考の方法について図を使って解説している。</li> </ul>

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
17 教 出	観点1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の扉に、課題を考えるためのキーワードと単元名を示している。</li> <li>・新出漢字は396字で、新出漢字が出た行の脚注に漢字のみを示し、本文中にルビをふっている。また、教材末にページ数、音訓、用例を、巻末に「〇年で学習した漢字」としてページ数、音訓、中学校で学ばない読み、総画数、部首、部首を除いた画数、筆順、用例を示している。</li> <li>・情報の扱い方に関する事項については、各学年とも、「メディアと表現」を設定し、1学年は4つ、2・3学年は3つ掲載するとともに、「メディアと表現」教材「学びナビ」の中で、学習を踏まえた解説を加え、情報の扱い方を説明している。著作権は2学年のみ扱っている。</li> <li>・読書単元「読書への招待」2回を設定して2作品を掲載し、学習の手引きにポップづくりなど読書活動を示し、巻末「言葉の自習室」に全学年で古典を含む4作品を掲載している。書籍紹介数 274冊。</li> </ul>
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決的な学習を実施するための工夫として、1学年「書く」では、「材料を整理して案内文を書く」で、題材を決め、必要な情報を集め、整理した後、相手や目的を意識しながら案内文を書く活動を取り上げている。</li> <li>・「学びナビ」「学習活動」「完成例」を、各1ページで構成している。</li> <li>・「学習ナビ」は上段で示した情報を整理する手順を下段で図解している。</li> <li>・「学習活動」は上段に学習の流れ、下段に学習のヒントを示している。</li> </ul>
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「本編」と「巻末付録」の2部からなる。</li> <li>・「本編」は、1・2学年が9単元、3学年が8単元で構成している。</li> <li>・SDGsを国語科の視点で教材化した教材「持続可能な未来を創るために」を新設している。</li> <li>・「読むこと」の3年間合計ページ数が404ページとなっている。</li> </ul>
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学年説明的な文章において文章と図表との関連について考えさせる教材は、4教材28ページ掲載されている。図表等は3種類21点。</li> <li>・巻末の「学習に必要な用語索引」が2ページある。また、「理解に役立つ言葉」「表現に役立つ言葉」は、折込4ページある。読書は4編12ページ。また、「近代文学史年表」を3ページで示している。総ページ84。</li> </ul>
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「話すこと・聞くこと」の学習では、「話すこと・聞くこと」を1学年4単元、2・3学年5単元設定してある。また、全学年「持続可能な未来を創るために」という「書く」と「読む」の複合単元を設定し考えるテーマを学年毎に変えている。各単元に「ここが大事」とポイントを掲載している。</li> <li>・考えを伝えるなどして話し合う活動の工夫では、「発言を結びつけて話し合う」において、話題を意識し、他者の意見と結びつけた発言をし、総括しながら話し合っていく学習活動が取り上げられている。</li> <li>・言語活動充実の手立てとして、「言葉の自習室」で、アイデアの出し方、レポートの書き方などを説明している。</li> </ul>

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
38 光 村	観点1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の初めと、終わりに目標を示している。</li> <li>・新出漢字は390字で、脚注に行数と音訓と本文中の読みを、教材末にページ数、音訓を、巻末に「〇年生で学習した漢字」としてページ数、音訓、部首、画数、筆順、用例、慣用句・ことわざ・四字熟語などを示している。</li> <li>・情報の扱い方に関する事項については、各学年とも、「情報社会を生きる」を設定し、教材を掲載するとともに、資料編の中に、情報整理の方法として、『情報処理のレッスン』一覧、情報と情報の関係を『思考のレッスン』一覧として掲載している。著作権は1・3学年で扱っている。</li> <li>・読書単元「読書生活を豊かに」「読書に親しむ」を設定して2作品を掲載し、読んだ本の紹介などの読書活動を示している。書籍紹介数 277冊。</li> </ul>
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決的な学習を実施するための工夫として、1学年「書く」では、「根拠を示して説明しよう 資料を引用してレポートを書く」で、中学生の生活から課題を決め、実態調査やアンケート等の結果整理した後、課題に関連する資料を引用しながらレポートを書く活動を取り上げている。</li> <li>・「話すこと・聞くこと」「書くこと」を扱うページを上下2段にわけ、上段に学習の流れ、下段に具体的な例を示している。</li> <li>・見開き1ページで学習の流れの一覧を示し、「生かす」では、関連する既習事項を、「つなぐ」では、日常生活、学校生活、将来の3つの視点で生かせる場の具体的な例を示している。</li> <li>・3学年「多角的に分析して書こう 説得力のある批評文を書く」では、題材の例（広告）、分析例、批評文の例が示されている。</li> </ul>
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「本編」と「巻末資料」の2部からなる。</li> <li>・「本編」は、各学年8単元で構成している。</li> <li>・情報教材として「思考のレッスン」「情報整理のレッスン」を配置している。</li> <li>・「伝統的な言語文化」の3年間合計ページ数が83ページとなっている。</li> </ul>
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学年説明的な文章において文章と図表との関連について考えさせる教材は、5教材28ページ掲載されている。図表等は4種類22点。</li> <li>・巻末には、学習の窓として「文学的な文章を読むために」や「思考のレッスン」「情報整理のレッスン」など基本的な学習用語がまとめられている。（7＋折込4）総ページ98。</li> </ul>
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「話すこと・聞くこと」の学習では、全学年「話すこと・聞くこと」が6単元ずつ設定してある。また、全学年最後の単元は「〇〇を振り返ろう」と「書く」と「読む」の複合単元を設定している。「学びの窓」で「〇〇には」と活動のポイントを箇条書きで示している。</li> <li>・考えを伝えるなどして話し合う活動の工夫では、「話題や展開を捉えて話し合おう グループディスカッションをする」として、話題を決め、自分の考えを付箋に書き根拠を考え、司会と書記を決めた後、模造紙や付箋を使って意見をまとめて全体で発表する活動が取り上げられている。</li> <li>・言語活動充実の手立てとして、資料編で、表現活動のテーマ例や情報整理の方法などを解説している。</li> </ul>

様式 1

令和3年度に義務教育諸学校で使用する教科用図書採択に係る答申

山県教科用図書採択地区選定委員会

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	書写
第1推薦	38 光村
第2推薦	2 東書

(中学校：書写) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
2 東書	観点1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標の示し方は、「目標」と明記して、小单元ごとに示している。</li> <li>・1学年の目標の数は3。</li> <li>・巻頭に毛筆、硬筆それぞれの正しい姿勢、鉛筆の持ち方、筆の持ち方、用具の置き方、墨のすり方、後片付け、構え方を、写真及びイラストで2ページにわたり示している。</li> </ul>
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「見つけよう」では、硬筆文字から課題を考えさせている。</li> <li>・「書写のかぎ」では、文字を正しく書くためのポイントを掲載し、教材文字の左に「書写のかぎ」を示している。</li> <li>・複数单元ごとに「まとめ」と「書写テスト」が設定され、学習内容を確認・評価させている。</li> <li>・「振り返って話そう」では、目標を達成できたかや「書写のかぎ」や書写用語を使って、学んだことを説明する活動を示している。</li> </ul>
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A B判、本編92ページ、資料編38ページで構成している。</li> <li>・各学年末に「文字のいずみ」として、書き初め、書写の歴史や古典を題材とした教材等を掲載している。</li> <li>・伝統と文化に関する内容の記述については、3年間合計17单元28ページ。</li> </ul>
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配色、レイアウト等表現・表記の工夫として、ポイントとなるところに、「四つの動き」を示すアイコンで筆使いを示している。</li> <li>・デジタルコンテンツが、全28箇所ある。(1年：11教材、2年：8教材、3年：5教材、書写ブック：4箇所)</li> </ul>
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年に「生活に広げよう」というページがあり、学習したことを日常に掲示物や記述の場面で活用させる設定がされている。</li> </ul>

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
15 三省堂	観点1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標の示し方は、「目標を確かめよう」という意味の旗の記号と共に、小單元ごとに示している。</li> <li>・1学年の目標の数は4。</li> <li>・巻頭に、毛筆の正しい姿勢、鉛筆の持ち方、筆の持ち方、用具の置き方、墨のすり方、片付け方について、また硬筆についても姿勢と構え方、鉛筆の持ち方を、写真及びイラストで、5ページにわたり示している。</li> </ul>
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「書き方を学ぼう」では、書き方のポイントを字形例とともに、楷書と行書10種類で示している。</li> <li>・毛筆で習得したことを、他教科の学習や日常生活・社会生活でも活用できるように、硬筆による書き込みページが設けられている。</li> <li>・単元末の「自分の言葉でまとめよう」の「振り返ろう」では、学んだことが実際に活用できているかを書いて確認し、「自分で学んだことを書き残そう。」では、学んだことを自分の言葉でまとめさせている。</li> </ul>
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・B5判、本編67ページ、資料編47ページで構成している。</li> <li>・書写を日常生活に生かす教材や書き初め、毛筆の補充教材を掲載している。</li> <li>・硬筆記入欄が20ページとなっている。</li> <li>・伝統と文化に関する内容の記述については、3年間合計7単元14ページ。</li> </ul>
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配色、レイアウト等表現・表記の工夫として、ポイントとなるところに、行書の文字（朱墨）と、楷書（黒字）の文字を並べて示している。</li> <li>・デジタルコンテンツが、「基礎編」「学習のはじめに」にある。</li> </ul>
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の終わりに「やってみよう」というページを設定している。</li> </ul>
17 教 出	観点1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標の示し方は、「目標」と明記して、小單元ごとに示している。</li> <li>・1学年の目標の数は5。</li> <li>・巻頭に毛筆の正しい姿勢、鉛筆、ボールペンの持ち方、筆の持ち方、用具の置き方、墨のすり方、後片付け、構え方、筆の各部分の名称について写真で2ページにわたり示している。</li> </ul>
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「考えよう」では、示された観点を基に課題を発見し、課題を解決していく学び方や話し合い活動を通した学び方を示している。</li> <li>・毛筆で習得したことを、硬筆の他の文字に応用・転移できる教材が掲載されたページがある。</li> <li>・「振り返ろう」では、評価の観点に沿って「○=できた」「△=もう少し」で自己評価を記入したり、試し書きとまとめ書きを比べて、よくなったところを伝え合う相互評価したりする活動が示されている。</li> </ul>
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AB判、本編89ページ、資料編41ページで構成している。</li> <li>・資料編は、書写を日常生活に生かす教材や書写テスト問題、情報の整理の仕方を掲載してある。</li> <li>・伝統と文化に関する内容の記述については、3年間合計13単元25ページ。</li> </ul>



発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配色，レイアウト等表現・表記の工夫として，ポイントとなるところに，筆遣いの「変化」を示すアイコンと写真で，筆使いを示している。</li> <li>・デジタルコンテンツが全16箇所ある。（1年：7箇所，2年：5箇所，3年：3箇所，補充教材集：1箇所）</li> </ul>
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年に，学習や日常生活と関連付けがされた教材が多く掲載されている。</li> </ul>
38 光 村	観点1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標の示し方は，「目標」と明記して，小単位ごとに示している。</li> <li>・1学年の目標の数は2。</li> <li>・巻頭に毛筆の正しい姿勢，鉛筆の持ち方，筆の持ち方，用具の置き方，後片付け，構え方について，写真を2ページにわたり示している。</li> </ul>
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「考えてみよう」では，考えたり話し合ったりし，課題を見つけさせている。</li> <li>・「学習の窓」では，日常生活に欠かせない文字を整えて書くためのポイントを示している。</li> <li>・「学習を振り返る」では，評価の観点に沿って自己評価をしたり，「書写ブック」で練習したりする活動が示されている。</li> </ul>
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・B5判，本編77ページと資料編48ページ，「書写ブック」24ページで構成している。</li> <li>・資料編は，書写を日常生活に生かす教材や書き初め等を掲載している。</li> <li>・硬筆記入欄のページ数を37ページ設けている。</li> <li>・伝統と文化に関する内容の記述については，3年間合計8単元15ページ。</li> </ul>
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配色，レイアウト等表現・表記の工夫として，ポイントとなるところに，写真と言葉で筆使いを示している。</li> <li>・デジタルコンテンツ二次元コードが全42箇所ある。（1年：15教材，2年：10教材，3年：7教材，補助教材：10箇所）</li> </ul>
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年に「名文を書いてみよう」が設定されており，古文・現代文を書く活動がある。</li> </ul>

令和3年度に義務教育諸学校で使用する教科用図書の採択に係る答申

山県教科用図書採択地区選定委員会

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	社会（地理）
第1推薦	2 東 書
第2推薦	4 6 帝 国

（中学校：社会・地理） 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
2 東 書	観点1	・基礎的・基本的な技能を身に付けるためのコーナー及び学習内容の説明や関連する内容を取り上げたコーナーを、「スキルアップ」32か所、「地理にアクセス」というコーナーを設けている。
	観点2	・SDGsの視点から地域の課題を考え、「課題を見つける」「課題を調査する」「要因を考察する」「解決策を構想する」「地域の将来像を提案する」の手順で示している。
	観点3	・総ページ302。「世界と日本の地域構成」27、「世界の様々な地域」107、「日本の様々な地域」142、その他26で構成されている。
	観点4	・写真171点、絵図12点、地図52点、図表・グラフ50点（世界の諸地域に関する掲載資料）
	観点5	・単元のまとめにおいて、テーマについて自分の言葉でまとめる活動を示している。
17 教 出	観点1	・学習内容を説明したコラム「地理の窓」54か所、「LOOK!」というコーナーを設けている。
	観点2	・地域の課題キーワードを挙げ、「課題をとらえる」「課題を調べる」「地域に向けて発信する」の手順で示している。
	観点3	・総ページ304。「世界と日本の地域構成」19、「世界の様々な地域」101、「日本の様々な地域」149、「その他」35で構成されている。
	観点4	・写真132点、絵図6点、地図52点、図表・グラフ39点（世界の諸地域に関する掲載資料）
	観点5	・単元のまとめを、「ワードチェック」「地図を使って確かめよう」「表現しよう」「意見を交換しよう」という一連の流れで設定している。
46 帝 国	観点1	・学習内容に関連した「地理プラス+」「共生」「環境」「防災」「解説」の5つのコーナーを設けている。基礎的な技能を身に付けるための「技能をみがく」を23か所設けている。
	観点2	・各地域の課題や持続可能な社会に向けて考えたことを振り返り、「課題を把握しよう」「地域をとらえよう」「課題の要因を考察しよう」「課題の解決に向けて構想しよう」「構想の成果を発信しよう」の手順で示している。

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
	観点 3	・総ページ 310。「世界と日本の地域構成」24 (8%), 「世界の様々な地域」104 (8%), 「日本の様々な地域」166 (53%), 「その他」16 (5%) で構成されている。
	観点 4	・写真 155 点, 絵図 6 点, 地図 41 点, 図表・グラフ 53 点 (世界の諸地域に関する掲載資料)
	観点 5	・単元のまとめを「特色と課題を整理しよう」「『節の問い』への考えを説明しよう」「持続可能な社会に向けて考えよう」の3つのステップで示し, 課題によって「説明しよう」「話し合おう」などの表現活動を設定している。
116 日 文	観点 1	・学習内容を説明したコーナー「地理+α」を16か所, 技能を習得するためのコーナー「スキルUP」を31か所設けている。
	観点 2	・日本の諸地域で扱った課題を振り返り, 「地域の課題と特色をつかもう」「地域の課題の要因を考察しよう」「課題の解決に向けて構想しよう」「まちづくり会議を開こう」の手順で示している。
	観点 3	・総ページ数 298。「世界と日本の地域構成」22, 「世界の様々な地域」95, 「日本の様々な地域」156, 「その他」25 で構成されている。
	観点 4	・写真 145 点, 絵図 8 点, 地図 32 点, 図表・グラフ 63 点 (世界の諸地域に関する掲載資料)
	観点 5	・単元のまとめに「アクティビティ」を設け, 話し合い, ディベート, 関係図づくり, キャッチフレーズづくり等の表現活動を設定している。

令和3年度に義務教育諸学校で使用する教科用図書の採択に係る答申

山県教科用図書採択地区選定委員会

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	社会（歴史）
第1推薦	2 東 書
第2推薦	1 1 6 日 文

（中学校：社会・歴史） 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
2 東 書	観点1	・国際社会で主体的に生きる基盤となる知識・技能を身に付けさせるための工夫として、日本に影響を与えた文化交流に関するコラム数は9点あり、古代1点、中世2点、近世3点、近代3点の内訳となっている。近世・近代での出典数が多い。
	観点2	・課題の設定、整理・分析、振り返りを展開するための構成上の工夫として、「第1章 歴史へのとびら」の「2節 身近な地域の歴史」において、調べ学習の「テーマ設定」、「調査」、「考察」に向けての手順とポイントを示している。
	観点3	・総ページ304、歴史との対話12、古代44、中世36、近世50、近代102、現代32、その他28
	観点4	・（「近代の日本」での掲載数）写真(133)・絵図(85)・地図(33)・図表・グラフ(27)・文書資料(44)・年表(5)・人物(56)
	観点5	・「中世とはどのような特色を持つ時代だったのでしょうか」という問いに対して、自分の考えを文章にまとめる。ア。「政治」「国際関係」「社会・経済」「文化」の四つの視点を示している。イ. 文章にまとめる前に、思考ツールに考えをまとめるように促している。ウ. 意見交換や、自分の考えの修正の方法を示している。
1 7 教 出	観点1	・国際社会で主体的に生きる基盤となる知識・技能を身に付けさせるための工夫として、日本に影響を与えた文化交流に関するコラム数は7点あり、古代1点、中世1点、近世3点、近代1点、現代1点の内訳になっている。近世の出典数が多い。
	観点2	・課題の設定、整理・分析、振り返りを展開するための構成上の工夫として、「第1章歴史のとらえ方・調べ方」の「2節身近な地域の歴史を調べよう」において、調べ学習の「テーマを決めよう」、「情報を集めよう」、「具体的な調査の課題を決めよう」と6つの例とともに手順とポイントを示している。
	観点3	・総ページ310、歴史との対話15、古代42、中世36、近世50、近代108、現代36、その他23
	観点4	・（「近代の日本」での掲載数）写真(123)・絵図(86)・地図(28)・図表・グラフ(32)・文書資料(21)・年表(7)・人物(51)

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「中世がどのような時代だったかを表現し、その理由を説明しよう。」という問いに対して、自分の考えを文章にまとめる。ア. 文章でまとめる前に、古代と中世を比較した表を、「政治」「外国との関係」「文化」の視点でまとめる学習活動を設定している。</li> </ul>
46 帝 国	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際社会で主体的に生きる基盤となる知識・技能を身に付けさせるための工夫として、日本に影響を与えた文化交流に関するコラム数は18点あり、古代4点、中世4点、近世3点、近代7点の内訳になっている。「地域史」「環境」「交流」等に分けられている。</li> </ul>
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の設定、整理・分析、振り返りを展開するための構成上の工夫「第1章 歴史のとらえ方と調べ方」の「第2節 歴史の調べ方・まとめ方・発表のしかた」において、「歴史の謎を探る～問いを作ろう～」、「資料をよく見てヒントを探そう」、「謎解きの答えを分かりやすくまとめよう」と調べ学習の1つの具的事例を追って手順とポイントを示している。</li> </ul>
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総ページ306, 歴史との対話13, 古代44, 中世36, 近世54, 近代108, 現代30, その他21</li> </ul>
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(「近代の日本」での掲載数) 写真(136)・絵図(85)・地図(40)・図表・グラフ(38)・文書資料(2)・年表(4)・人物(53)</li> </ul>
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「この時代はどのような時代だったかを、自分の言葉で説明してみよう。」という問いに対して、自分が重視した歴史的な見方・考え方を明らかにし、2つの学習活動を通じて文章にまとめる。ア. 身分や職業について、「タテ(支配)とヨコ(対等)の関係図を作ってみよう。」という問いに対して、図で自分の考えをまとめる。イ. 「なぜ、『武士』と『庶民』はそれぞれの結び付きを強めていったのか」等の問いに対して、話し合いをする。</li> </ul>
81 山 川	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際社会で主体的に生きる基盤となる知識・技能を身に付けさせるための工夫として、日本に影響を与えた文化交流に関するコラム数は10点あり、古代3点、中世4点、近世1点、近代2点の内訳となっている。古代・中世の出典数が多い。</li> </ul>
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の設定、整理・分析、振り返りを展開するための構成上の工夫として、「第1章 歴史との対話」の「2節 身近な地域を調べよう」において、「テーマを設定しよう」、「さあ調査だ!」、「レポートをつくって発表しよう!」とイラストとともに調べ学習のポイントを示している。</li> </ul>
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総ページ294, 歴史との対話9, 古代48, 中世40, 近世52, 近代100, 現代30, その他15</li> </ul>
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(「近代の日本」での掲載数) 写真(151)・絵図(86)・地図(35)・図表・グラフ(37)・文書資料(19)・年表(3)・人物(49)</li> </ul>
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4つの立場(人)を示し、それぞれの立場で問いに対して、自分の考えを文章にまとめる。ア. 「武士」「農民」「守護」「荘園領主」の4つの立場を設定している。イ. 自分の考えは、「鎌倉時代」から「戦国時代」の4つに時代区分のそれぞれでまとめる。</li> </ul>

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
116 日 文	観点1	・国際社会で主体的に生きる基盤となる知識・技能を身に付けさせるための工夫として、日本に影響を与えた文化交流に関するコラム数は11点あり、古代2点、中世2点、近世4点、近代1点、現代2点の内訳になっている。近世の出典数が多い。
	観点2	・課題の設定、整理・分析、振り返りを展開するための構成上の工夫として、各章に「でかけよう！地域調べ」を設定し、各時代における事例をもとに、現地調査による調べ学習のポイントを示している。
	観点3	・総ページ328, 歴史との対話8 (2.4%), 古代50 (15.2%), 中世42 (12.8%), 近世52 (15.9%), 近代102 (31.1%), 現代38 (11.6%), その他36 (11.0%)
	観点4	・(「近代の日本」での掲載数) 写真(105)・絵図(78)・地図(35)・図表・グラフ(37)・文書資料(31)・年表(38)・人物(49)
	観点5	・「中世に定められた主な『法』」に着目し、古代と比較しながら、中世の特色を考えていきましょう。」という問いに対して、自分の考えを3つのステップでまとめる。ア. 「古代と中世の主な法にどのような特色があるのでしょうか。」という問いに対して、教科書の表の空欄に記入する。イ. 「なぜ、これらの法はつくられたのでしょうか。」という問いに対して、教科書の表の空欄に記入する。ウ. 中世の特色を、文章にまとめる。
227 育鵬社	観点1	・国際社会で主体的に生きる基盤となる知識・技能を身に付けさせるための工夫として、日本に影響を与えた文化交流に関するコラム数は8点あり、古代4点、近代3点、現代1点の内訳になっている。古代の出典数が多い。
	観点2	・課題の設定、整理・分析、振り返りを展開するための構成上の工夫として、序章と第4章に「地域の歴史を調べよう」を設定し、それぞれ1つの事例を具体的に調べ学習のポイントを示している。
	観点3	・総ページ314, 歴史との対話13 (4.1%), 古代50 (15.9%), 中世34 (10.8%), 近世52 (16.6%), 近代102 (32.5%), 現代33 (10.5%), その他30 (9.6%)
	観点4	・(「近代の日本」での掲載数) 写真(89)・絵図(74)・地図(34)・図表・グラフ(36)・文書資料(17)・年表(10)・人物(77)
	観点5	・「この時代はどのような時代だったといえるのか」といった問いに対して、自分の考えを文章にまとめ、クラスで話合うために5つの活動を設定している。ア. 年表の空欄に当てはまる言葉を選ぶ。イ. 戦いについての整理をする。ウ. この時代で最も重要だと思う人物を選び、理由をまとめる。エ. 歴史的な事象に当てはまる場所を地図上から選ぶ。オ. 暮らしや社会の様子について、資料や前の時代の様子を参考にして説明する。
229 学び舎	観点1	・国際社会で主体的に生きる基盤となる知識・技能を身に付けさせるための工夫として、日本に影響を与えた文化交流に関するコラム数は16点あり、古代2点、中世4点、近世4点、近代3点、現代3点の内訳になっている。中世・近世の出典数が多い。

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
	観点 2	・課題の設定, 整理・分析, 振り返りを展開するための構成上の工夫として, 「歴史への案内」を設定し, 地域の博物館での調べ学習や現地調査における, 学習のポイントを示している。
	観点 3	・総ページ 306, 歴史との対話 6 (2.0%), 古代 44 (14.4%), 中世 32 (10.5%), 近世 50 (16.3%), 近代 110 (35.9%), 現代 36 (11.8%), その他 28 (9.1%)
	観点 4	・(「近代の日本」での掲載数) 写真(155)・絵図(72)・地図(33)・図表・グラフ(22)・文書資料(1)・年表(1)・人物(38)
	観点 5	・「どのような人びとが力をもった時代だったのでしょうか。前の時代と比べながら, 自分の考えを文章にまとめましょう。」と, 視点を示した問いに対して, 自分の考えを文章にまとめる。

令和 3 年度に義務教育諸学校で使用する教科用図書の採択に係る答申

山県教科用図書採択地区選定委員会

観点 1	基礎・基本の定着
観点 2	主体的に学習に取り組む工夫
観点 3	内容の構成・配列・分量
観点 4	内容の表現・表記
観点 5	言語活動の充実

教科名	社会（公民）
第 1 推薦	2 東 書
第 2 推薦	1 1 6 日 文

（中学校：社会・公民） 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
2 東 書	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会をとらえる見方や考え方を理解させるために、部活動ごとの体育館使用の割り振りを取り上げている。</li> <li>・「T市の自転車の使用ルールを考えよう」という活用課題を示している。</li> </ul>
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の導入において、見開き 2 ページで「導入の活動」を設定し、大単元の学習を貫く「探究課題」を設定している。</li> <li>・「小学校で習ったことば」を掲載している。</li> <li>・持続可能な社会の形成に関わる課題例を分野ごとに計 12 例示している。</li> </ul>
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総ページ数 262, 「私たちと現代社会」 31, 「私たちと経済」 52, 「私たちと政治」 90, 「私たちと国際社会の諸課題」 40, その他 49 となっている。</li> </ul>
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「私たちと政治」における資料の総掲載数 259 点（絵図 55, 写真 122, 地図 3, 表・グラフ 53, 新聞 12, 年表 2, 文書資料 12）</li> </ul>
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元末に、「探究のステップの問いを解決しよう」を 1 ページ設け、単元の内容をまとめながら構造的に捉えられるようにしている。</li> <li>・「まとめの活動」を 2 ページ設け、発展的な課題を設けるとともに、単元の導入で示した「探究課題」に対するまとめを行うようにしている。</li> </ul>
1 7 教 出	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会をとらえる見方や考え方を理解させるために、合唱コンクールの練習日の割り振りを取り上げている。</li> <li>・「ごみ収集所の新たな設置」という活用課題を示している。</li> </ul>
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の導入において、見開き 2 ページで「第〇章のはじめに」を設け、導入の活動を設定し、大単元の「学習の見通し」を示している。</li> <li>・「まなびリンク」として二次元コードを掲載し関連する情報につないでいる。</li> <li>・持続可能な社会の形成に関わる課題例を分野ごとに計 15 例示している。</li> </ul>
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総ページ数 272, 「私たちと現代社会」 26, 「私たちと経済」 64, 「私たちと政治」 90, 「私たちと国際社会の諸課題」 45, その他 47 となっている。</li> </ul>
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「私たちと政治」における資料の総掲載数 255 点（絵図 54, 写真 116, 地図 5, 表・グラフ 64, 新聞 5, 年表 3, 文書資料 8）</li> </ul>



発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元末に、「第○章の学習を振り返って整理しよう」を3ページ設け、1ページ目は用語の理解を促す問い、2ページ目は、資料を見て考える問い、3ページ目に、章全体のテーマについて、説明したり、自分の考えをまとめさせたりする問いを掲載している。</li> </ul>
4 6 帝 国	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会をとらえる見方や考え方を理解させるために、防災備蓄倉庫の新設を取り上げている。</li> <li>・「マンションの騒音問題を解決しよう」という活用課題を示している。</li> </ul>
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の導入において、「第○部を見通そう」の欄を設け、その単元で何を学習するかを示している。</li> <li>・「小学校との関連」のコラムがある。</li> <li>・持続可能な社会の形成に関わる課題例を分野ごとに7例示している。</li> </ul>
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総ページ数246、「私たちと現代社会」26、「私たちと経済」64、「私たちと政治」80、「私たちと国際社会の諸課題」41、その他35となっている。</li> </ul>
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「私たちと政治」における資料の総掲載数194点（絵図45、写真81、地図1、表・グラフ54、新聞7、年表2、文書資料4）</li> </ul>
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元末に、「章の学習を振り返ろう」を2ページ設け、1ページ目は、学んだ知識を確かめる問い、2ページ目は、見方・考え方を働かせて考える問いを掲載している。</li> </ul>
1 1 6 日 文	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会をとらえる見方や考え方を理解させるために、合唱コンクールの練習スケジュールを取り上げている。</li> <li>・活用課題は示していない。</li> </ul>
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の導入において、「第○編の学習について」の欄を設け、その単元で何を学習するかを示している。</li> <li>・持続可能な社会の形成に関わる課題例を分野ごとに33例示している。</li> </ul>
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総ページ数264、「私たちと現代社会」28、「私たちと経済」54、「私たちと政治」88、「私たちと国際社会の諸課題」45、その他49となっている。</li> </ul>
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「私たちと政治」における資料の総掲載数262点（絵図62、写真106、地図3、表・グラフ66、新聞10、年表1、文書資料14）</li> </ul>
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元末に、「学習の整理と活用」を1ページ設け、「学習内容と語句の整理」の欄、「ニュースを『見方・考え方』から見てみよう」の欄を設けている。</li> <li>・各章の終わりに、「シンキングツールを使ってみよう」がある。</li> </ul>
2 2 5 自由社	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会をとらえる見方や考え方を理解させるために、部活動ごとの体育館使用の割り振りを取り上げている。</li> <li>・「魅力ある『まちづくり』を考えよう」という活用課題を示している。</li> </ul>
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の導入において、最初のページに人のいる風景のイラストを掲載し、単元名の下に単元の内容についての問いを示している。</li> <li>・国連が掲げる「持続可能な開発目標（SDGs）」17項目を掲載している。</li> </ul>
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総ページ数270、「私たちと現代社会」42、「私たちと経済」44、「私たちと政治」78、「私たちと国際社会の諸課題」60、その他46となっている。</li> </ul>

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「私たちと政治」における資料の総掲載数 122 点（絵図 22，写真 77，地図 1，表・グラフ 16，新聞 4，年表 0，文書資料 2）</li> </ul>
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元末に、「学習のまとめと発展」を 1 ページ設け、「学習のまとめ」欄で用語を掲載し、「学習の発展」欄では、学習内容の関連する複数の課題を提示し、1 つを選択して 400 字でまとめる課題を設定している。</li> </ul>
227 育鵬社	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会をとらえる見方や考え方を理解させるために、昼休みのグラウンド使用を取り上げている。</li> <li>・活用課題は示されていない。</li> </ul>
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の導入において、見開き 2 ページで、「〇〇の入り口」を設け、イラストや資料をもとに導入の活動をさせるとともに、その単元を学ぶ意義や単元で考えることを示している。</li> <li>・単元に関連し、小学校で学習した用語を枠囲みで掲載している。</li> <li>・持続可能な社会の形成に関わる課題例を分野ごとに 12 例示している。</li> </ul>
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総ページ数 254，「私たちと現代社会」 28，「私たちと経済」 52，「私たちと政治」 80，「私たちと国際社会の諸課題」 43，その他 51 となっている。</li> </ul>
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「私たちと政治」における資料の総掲載数 242 点（絵図 43，写真 105，地図 3，表・グラフ 36，新聞 17，年表 1，文書資料 37）</li> </ul>
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元末に、「〇〇のこれから」を 2 ページ設け、単元の導入において「〇〇の入り口」で示された課題を受け、資料を活用し、学んだことを生かして取り組む課題が設定されている。また、「学習のまとめ」を 1 ページ設け、重要語句の確認及び説明させたり、自分の考えをまとめさせたりする問いを掲載している。</li> </ul>

※ すべての発行者について調査研究を行い、番号順に記載する。

令和3年度に義務教育諸学校で使用する教科用図書の採択に係る答申

山県教科用図書採択地区選定委員会

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	社会（地図）
第1推薦	46 帝国
第2推薦	2 東書

（中学校：社会・地図） 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
2 東書	観点1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻頭に「この地図帳の活用方法」を設け、一般図、テーマ地図、グラフ・写真などの資料の見方などの地図帳使い方や、歴史、公民分野での活用例を記載している。</li> <li>・日本の各地で掲載されている歴史に関する資料を、テーマ数15、全11ページにわたって取り上げている。</li> </ul>
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「この地図帳でいっしょに『世界旅行』をする友達と先生」というキャラクターを設定し、吹き出しを設けている。また、「ジャンプ」というマークを設定し、別ページにある関連性の深い内容を示している。</li> </ul>
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総ページ数192。「世界の資料図」20、「世界の諸地域」56、「日本の諸地域」62、「日本の資料図」19、「統計」10、「さくいん・資料さくいん」11、「巻頭・巻末」14</li> </ul>
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットを使った学習ができることを示した「D」マークを各所に記載している。</li> </ul>
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「この地図でいっしょに『世界旅行』をする友達と先生」というキャラクターを設定し、地図の活用方法や課題を追究するための問いなどの吹き出しを51か所設けている。</li> </ul>
46 帝国	観点1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻頭に「地図帳の使い方」を設け、地図の要素、一般図、鳥瞰図、資料図などの地図の使い方を記載している。</li> <li>・日本各地で掲載されている歴史に関する資料を、テーマ数18、全17ページにわたって取り上げている。</li> </ul>
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図活用の技能を身に付けるためのコーナー「地図活用」を各所に設定し、読図や比較を通して、分かることを整理したり、説明したりするような問いを示している。</li> </ul>
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総ページ数188。「使い方・資料」15、「世界の諸地域」58、「日本の諸地域」68、「日本の資料」20、「統計」9、「さくいん」12、「巻頭・巻末」6</li> </ul>
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地図活用」の解答や学習を深めるためのコンテンツを見ることができるよう、各所に二次元コードを記載している。</li> </ul>
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学習課題」や「地図活用」のコーナーを設定し、地図の読図や比較を通して、地図からわかることを整理したり、説明したりできるような問いを107か所設けている。</li> </ul>

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	数学
第1推薦	11 学 図
第2推薦	104 数 研

(中学校：数学) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
2 東 書	観点1	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学習内容の導入で、「Qマーク」を示し、学習の手掛かりになる問いかけを示している。</li> <li>例と類似する間には◆印をつけ、例題を参考できるようにしている</li> <li>例の横に「ちょっと確認」を配置し、既習事項を確認できるようにしている。</li> <li>節末の「基本の問題」では、理解が不十分な場合には本文の例に戻れるように関連する箇所を明記している。</li> <li>巻末の「補充の問題」では、「問」と対応した問題をくり返し練習できるように構成されてる。基礎・基本が確実に身に付くようにしている。</li> <li>少し難易度が高い問題については、星印(★)を明記している。</li> </ul>
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活や社会に関わる題材数(1年「比例, 反比例」「データの活用」「比例, 反比例」…19, 「データの活用」…14</li> <li>巻末及び別冊で取り扱われている問題数(各単元の学習を活用する問題, 複数の単元や領域の学習を総合的に活用する問題, 生活の中で活用する問題, 興味・関心や習熟に応じた問題) 1年…13, 2年…11, 3年…10 合計…34</li> <li>第2学年の「多角形の内角の和」における学習展開の工夫について (見通しをもたせる工夫) 小学校の内容を活用して自分の考えをもたせる。 (論理的に考察する工夫) 多様な考えを比較させ、基となる考え(三角形の内角の和は<math>180^\circ</math>)に気付かせる。 表を活用し、帰納的に考えることできまりを見いださせ、公式を考えさせる。 多角形の分け方を変えて発展的に考えさせる。</li> </ul>
	観点3	<p>(構成・配列)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2次方程式の解法は「平方根の考え」→「解の公式」→「因数分解」の配列になっている。</li> </ul> <p>(分量)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1年ページ数 250 P, 2年ページ数 196 P, 3年ページ数 228 P</li> </ul>
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> <li>イラスト・写真の数と具体例 3年「関数 <math>y=ax^2</math>」</li> </ul>

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴												
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ イラスト数 18 <ul style="list-style-type: none"> <li>・斜面で球を転がしたときの、1秒ごとの球の位置</li> <li>・ピサの斜塔からガリレオがボールを落下させている図 など</li> </ul> </li> <li>○ 写真数 9 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジェットコースター (3) ・パラボラアンテナ ・噴水 ・花火</li> <li>・公園内水飲み口の水の軌跡 ・上記写真とグラフのすり合わせ</li> <li>・渋滞の様子</li> </ul> </li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な場面の課題について、数学的な表現を用いながら、対話を通して解決していく場面を設定するとともに、社会とのつながりを知る機会を設けている。  &lt;具体例&gt;  2年「データを比較して判断しよう」  コンビニエンスストアの店長が、花見の時期にどんな商品がよく売れるかを調べるためにヒストグラムや箱ひげ図を用いる場面を設定している。</li> <li>・各学年の巻頭の「大切にしたい数学の学び方」で、ノートづくり方を示している。その具体例として単元途中に「数学マイノート」のページを設け、生徒のノートを例示し、書き方の工夫や学習の感想について示している。また、「学びをふり返ろう」で学んだことのまとめ方を例示している。  &lt;記述ページ数&gt;</li> </ul> <table border="1" data-bbox="564 1077 1021 1229" style="margin-left: 40px;"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>ノート</th> <th>レポート</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>6</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>	学年	ノート	レポート	1	6	2	2	3	2	3	3	3
学年	ノート	レポート												
1	6	2												
2	3	2												
3	3	3												
4 大日本	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初に学習のめあてを示して、具体的な学習活動を明記している。</li> <li>・「プラス・ワン」を「Q」の横に設け、さらに練習するための問題を設けている。</li> <li>・節末の「練習」では、理解が不十分な場合には本文の例に戻れるように関連する箇所を明記している。</li> <li>・章末問題以外に「力をのばそう」を設けている。</li> <li>・巻末の「補充問題」では学習の見直しをするために、問題の横に学習した場所のページ数が記載されている。</li> </ul>												
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活や社会に関わる題材数 (1年「比例, 反比例」「データの活用」)  「比例, 反比例」…27, 「データの活用」…18</li> <li>・巻末及び別冊で取り扱われている問題数 (各単元の学習を活用する問題, 複数の単元や領域の学習を総合的に活用する問題, 生活の中で活用する問題, 興味・関心や習熟に応じた問題)  1年…10, 2年…9, 3年…9 合計…28</li> <li>・第2学年の「多角形の内角の和」における学習展開の工夫  (見直しをもたせる工夫)  考え方の例を示して、内角の和の求め方に気付かせる。  (論理的に考察する工夫)</li> </ul>												

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴												
		<p>表をもとに，着目すべき点を明確にしなが，スモールステップで きまりに気付かせ，公式を考えさせる。 多角形の分け方を変えて発展的に考えさせる。</p>												
	観点 3	<p>(構成・配列)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>連立方程式の指導順番が加減法→代入法に変わっている。</li> <li>2次方程式の解法は「因数分解」→「平方根の考え」→「解の公式」の配列になっている。</li> </ul> <p>(分量)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1年ページ数 264 P，2年ページ数 202 P，3年ページ数 246 P</li> </ul>												
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>イラスト・写真の数と具体例 3年「関数 <math>y=ax^2</math>」</li> <li>○ イラスト数 22 <ul style="list-style-type: none"> <li>1辺が 10 cmの正方形の対角線上に，1つの頂点をそろえて1辺が <math>x</math> cmの直角二等辺三角形形を折り返し，10 cmから <math>x</math> cmをひいた差を <math>y</math> cmとした図</li> <li>同時にスタートし，自転車に乗った1人が，走っているもう一人を追いかける様子 など</li> </ul> </li> <li>○ 写真数 7 <ul style="list-style-type: none"> <li>投げたボールの軌跡 ・パラボラアンテナ</li> <li>ソーラークラッカー ・懐中電灯の反射板 ・振り子の軌跡</li> <li>製薬会社研究員佐藤さんの写真 ・佐藤さんの実験の様子</li> </ul> </li> </ul>												
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な場面から課題を見出し，見通しをもちながら情報を収集し，数学的に処理をすることを通して，課題解決をする機会を設けている。</li> </ul> <p>&lt;具体例&gt;</p> <p>2年「データの比較と箱ひげ図」 日本と外国のバレーボール選手の身長を箱ひげ図で比較する場面を設定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「研究をしよう」「レポートを書こう」として，生徒のレポートを例示し，書き方を説明している。また，数学的な見方・考え方を働かせるポイントを例示している。</li> </ul> <p>&lt;記述ページ数&gt;</p> <table border="1" data-bbox="564 1655 1023 1805"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>ノート</th> <th>レポート</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>	学年	ノート	レポート	1	1	3	2	1	2	3	1	2
学年	ノート	レポート												
1	1	3												
2	1	2												
3	1	2												
11 学 図	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの節において最初に目標が設定されている。</li> <li>それぞれの節において終わりに新たな問題発見を設定している。</li> <li>それぞれの節のはじめに，この節で何を学習するかを明示している。</li> <li>今後の学習等に「見方・考え方」を応用できるように意図的に提示している。</li> <li>文中の導入問題や例題で，小学校算数やこれまでの学習を適宜振り返る</li> </ul>												

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
		<p>ことができるように、側注として「ふりかえり」を提示している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 節末の「確かめよう」では、理解が不十分な場合には本文の例に戻れるように関連する例と問を明記している。</li> <li>・ 章のまとめの問題では、問題の程度によって基本、応用、活用に分かれている。</li> <li>・ 巻末の「1年の復習」では、基礎・基本となる問題には緑の下線を引いている。</li> </ul>
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常生活や社会に関わる題材数（1年「比例、反比例」「データの活用」「比例、反比例」…36、「データの活用」…24</li> <li>・ 巻末及び別冊で取り扱われている問題数（各単元の学習を活用する問題、複数の単元や領域の学習を総合的に活用する問題、生活の中で活用する問題、興味・関心や習熟に応じた問題） 1年…8， 2年…8， 3年…8 合計…24</li> <li>・ 第2学年の「多角形の内角の和」における学習展開の工夫について (見通しをもたせる工夫) 小学校の内容を活用して自分の考えをもたせる。 (論理的に考察する工夫) 表を活用し、帰納的に考えることできまりを見いださせ、公式を考えさせる。 多角形の分け方を変えて発展的に考え説明させる。 さらに多角形の分け方の多様性に気付かせそれらを統合させる。</li> </ul>
	観点 3	<p>(構成・配列)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2次方程式の解法は「因数分解」→「平方根の考え」→「解の公式」の配列になっている。</li> </ul> <p>(分量)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年ページ数 254 P， 2年ページ数 206 P， 3年ページ数 240 P</li> </ul>
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ イラスト・写真の数と具体例 3年「関数 <math>y=ax^2</math>」</li> <li>○ イラスト数 22 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スタートした1人が、走っている1人に追いつく様子</li> <li>・ 正方形の辺上の2つの動点とそれを結んでできる直角三角形など</li> </ul> </li> <li>○ 写真数 10 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 投げ上げたボールの軌跡 ・ 飛行機の先端</li> <li>・ 両端を固定したくさり自然に垂れ下がった様子</li> <li>・ パラボラアンテナ ・ 落下するボールの軌跡</li> <li>・ リレーのバトンパスの様子 ・ 観覧車 ・ 風力発電の風車</li> <li>・ 数学者 岡潔 ・ 急停車する自動車</li> </ul> </li> </ul>
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話し合いをベースにして課題発見から課題解決の流れを設定している。</li> </ul>

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴												
		<p>さらに新たな課題を発見する過程を示すことで、対話的な学びが実現できるようにしている。</p> <p>&lt;具体例&gt;  2年「データの分布」  5年間の日ごとの最高気温のデータを示し、1月から3月の間にメルボルンへ旅行に行くときの服装を考える場面を設定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学年の巻末に「表現する力を身につけよう」で説明しており、生徒のレポートを例示し、書き方を説明している。</li> </ul> <p>&lt;記述ページ数&gt;</p> <table border="1" data-bbox="571 539 1026 689"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>ノート</th> <th>レポート</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>5</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>5</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>	学年	ノート	レポート	1	5	3	2	4	3	3	5	3
学年	ノート	レポート												
1	5	3												
2	4	3												
3	5	3												
17 教 出	観点1	<ul style="list-style-type: none"> <li>章の最初に確認事項としての問題を設けている。また、アルファベットの確認をしている。</li> <li>例題で説明したことを確認するための問題として、「たしかめ」が明記している。</li> <li>「もどって確認」として既習事項の中で必要なことをまとめている。</li> <li>「数学の広場」として学習内容を深めたり広げたり、日常生活や他教科の学習に生かすような内容が明記している。</li> <li>「たしかめ」の補充問題として、どこをすればよいかを明記している。…巻末問題につがっている。</li> <li>節末問題ではどこで学習したか例、例題、問の番号が明記している。</li> <li>章末には学習のまとめとして、その章で学習した内容について振り返る場ページが記載されている。</li> <li>巻末問題は、学習した時の内容とリンクしており、ページが記載されている。</li> </ul> <p>また「実力アップ問題」が記載されている。</p>												
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活や社会に関わる題材数（1年「比例, 反比例」「データの活用」「比例, 反比例」…31, 「データの活用」…18</li> <li>巻末及び別冊で取り扱われている問題数（各単元の学習を活用する問題, 複数の単元や領域の学習を総合的に活用する問題, 生活の中で活用する問題, 興味・関心や習熟に応じた問題）  1年…6, 2年…6, 3年…7 合計…19</li> <li>第2学年の「多角形の内角の和」における学習展開の工夫  （見通しをもたせる工夫）  小学校の内容を活用して自分の考えをもたせる。  （論理的に考察する工夫）  表を活用し、帰納的に考えることできまりを見いださせ、公式を考えさせる。  多角形の分け方を変えて発展的に考え説明させる。</li> </ul>												



発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴											
	観点 3	(構成・配列) ・ 2次方程式の解法は「因数分解」→「平方根の考え」→「解の公式」の配列になっている。 (分量) ・ 1年ページ数 265 P, 2年ページ数 196 P, 3年ページ数 237 P											
	観点 4	・ イラスト・写真の数と具体例 3年「関数 $y=ax^2$ 」 ○ イラスト数 13 ・ 斜面でボールを転がしたときの, $x$ 秒後のボールの位置 ・ 正方形の辺上の2つの動点とそれを結んでできる直角三角形など ○ 写真数 6 ・ 噴水 ・ 投げ上げたボールの軌跡 ・ パラボラアンテナ ・ 懐中電灯 ・ 札幌市中心部 ・ ガリレオ・ガリレイ											
	観点 5	・ 数学を活用して調べたことをレポートにまとめる活動を取り上げ, 数学的な表現力を育成するとともに, 他者とのコミュニケーションを通して, 自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。 <具体例> 2年「データの分析」 花粉の過去の飛散量を調べる場面を設定している。 ・ 単元途中に「工夫してノートを書こう」のページを設け, 生徒のノートを例示し, 書き方の工夫について示している。また, 各単元の章末, 章の学習のふり返りに関する生徒のノートを例示している。 <記述ページ数> <table border="1" data-bbox="571 1243 1024 1393"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>ノート</th> <th>レポート</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>11</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>10</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>11</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	学年	ノート	レポート	1	11	1	2	10	1	3	11
学年	ノート	レポート											
1	11	1											
2	10	1											
3	11	1											
61 啓林館	観点 1	・ 表現する力を身につけるために, 「説明しよう」, 「話し合おう」, 「まとめよう」を設定し, 理解を深めたり, 学びを広げたりする活動が設定している。 ・ 系統性を考え, 既習の内容をもとに新しい学習内容へとスムーズに発展していけるように, 「ひろげよう」を設定している。 ・ 例については, 具体的に何について学習するかを明記している。 ・ 節末問題の代わりに小さい單元ごとに練習問題が明記されており, また帯のところは何についての問題か明記されている。 ・ 章末問題の「学びをたしかめよう」「学びを身につけよう」がある。 ・ 巻末「もっと練習しよう」の問題については, その章のどこで学習したか問を明記してある。											
	観点 2	・ 日常生活や社会に関わる題材数 (1年「比例, 反比例」「データの活用」 「比例, 反比例」…29, 「データの活用」…14 ・ 巻末及び別冊で取り扱われている問題数 (各単元の学習を活用する問											

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴												
		<p>題，複数の単元や領域の学習を総合的に活用する問題，生活の中で活用する問題，興味・関心や習熟に応じた問題)</p> <p>1年…14，2年…11，3年…15 合計…40</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第2学年の「多角形の内角の和」における学習展開の工夫について (見通しをもたせる工夫) 考え方の例を示して，内角の和の求め方に気付かせる。 (論理的に考察する工夫) 表を活用し，帰納的に考えることでできまりを見いださせ，公式を考えさせる。 多角形の分け方を変えて発展的に考え説明させる。</li> </ul>												
	観点3	<p>(構成・配列)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2次方程式の解法は「平方根の考え」→「解の公式」→「因数分解」の配列になっている。</li> </ul> <p>(分量)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1年ページ数 241 P，2年ページ数 184 P，3年ページ数 216 P</li> </ul>												
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> <li>イラスト・写真の数と具体例 3年「関数<math>y=ax^2</math>」</li> <li>○ イラスト数 10 <ul style="list-style-type: none"> <li>合同な2つの直角三角形の重なりが変化している様子</li> <li>斜面を転がるボールが<math>x</math>秒後に<math>ym</math>の距離を転がった図など</li> </ul> </li> <li>○ 写真数 8 <ul style="list-style-type: none"> <li>斜面で転がるボールの0.1秒ごとの位置</li> <li>落下するボールの軌跡</li> <li>投げたボールの軌跡(2)</li> <li>ふりこ時計</li> <li>カーリングのハウス</li> <li>走り幅跳びの選手の飛んだ軌跡</li> <li>ピサの斜塔</li> </ul> </li> </ul>												
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> <li>「説明しよう」，「話しあおう」，「まとめよう」などの活動を設定し，学習した内容や自らの考えをまとめたりふり返ったりするなどして，理解が深められるようにしている。</li> <li>&lt;具体例&gt; 2年「箱ひげ図とデータの活用」 昔に比べて気温が高くなっていることを調べるために，東京での5年間の最高気温のデータを示し，箱ひげ図から予想が正しいかどうかを調べる場面を設定している。</li> <li>第1学年「データの活用」で調査したことをレポートにまとめた具体例を示している。また，各学年の巻末「自分から学ぼう編」の中で，レポートの具体例を示している。</li> <li>&lt;記述ページ数&gt;</li> </ul> <table border="1" data-bbox="571 1951 1029 2101"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>ノート</th> <th>レポート</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>7</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>4</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>	学年	ノート	レポート	1	7	3	2	3	2	3	4	2
学年	ノート	レポート												
1	7	3												
2	3	2												
3	4	2												

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
104 数研	観点1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「Note」としてノートをとるときの具体的な注意点を記載している。</li> <li>・ それぞれの単元において、学習する内容が明記してある。</li> <li>・ インターネットへリンクマークとして、「補充」,「資料」がある。</li> <li>・ 別冊ノートがついており、教科書には探究ノートと関連する内容があることを記している。</li> <li>・ 文字式の表記の仕方では注意すべき内容をまとめている。</li> <li>・ 例については、具体的に何について学習するかを明記している。</li> <li>・ その章の最終ページに内容に関連する話題や、学んだ内容を深める活動を取り上げている。</li> <li>・ 節末の「確認問題」では、その節で学んだ内容へ振り返ることができるようにページが明記されている。</li> <li>・ 章末問題は難易度の異なるAとBに分かれている。</li> <li>・ 巻末の「チャレンジ編」では、理解が不十分な場合には本文に戻れるように関連する箇所を明記している。</li> <li>・ 巻末問題はその章の内容を確認するための問題と応用力を高める問題に分かれている。</li> </ul>
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常生活や社会に関わる題材数（1年「比例, 反比例」「データの活用」 「比例, 反比例」…17, 「データの活用」…18</li> <li>・ 巻末及び別冊で取り扱われている問題数（各単元の学習を活用する問題, 複数の単元や領域の学習を総合的に活用する問題, 生活の中で活用する問題, 興味・関心や習熟に応じた問題） 1年…11, 2年…12, 3年…13 合計…36</li> <li>・ 第2学年の「多角形の内角の和」における学習展開の工夫 (見通しをもたせる工夫) 考え方の例を示して、内角の和の求め方に気付かせる。 (論理的に考察する工夫) 表を活用し、帰納的に考えることできまりを見いださせ、公式を考えさせる。 多角形の分け方を変えて発展的に考え説明させる。</li> </ul>
	観点3	<p>(構成・配列)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2次方程式の解法は「因数分解」→「平方根の考え」→「解の公式」の配列になっている。</li> </ul> <p>(分量)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年ページ数 250 P, 2年ページ数 198 P, 3年ページ数 250 P</li> </ul>
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ イラスト・写真の数と具体例 3年「関数 <math>y=ax^2</math>」 ○ イラスト数 13 ・ 底面が1辺 <math>x</math> cmで、高さが5 cmである正四角柱</li> </ul>

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴												
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・長方形の辺上の2つの動点とそれを結んでできる直角三角形など</li> </ul> <p>○ 写真数 9</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・噴水 ・花火 ・斜面で転がるボールの1秒ごとの位置 (2)</li> <li>・パラボラアンテナ ・宅配の様子 ・観覧車</li> <li>・バスの運転手横に設置してある運賃表 ・紙を半分に切る様子</li> </ul>												
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事実・方法・理由などを説明する問い，自己の考えを他者に伝える機会を多く設定している。</li> </ul> <p>&lt;具体例&gt;</p> <p>2年「データの活用」 4年間の体力テストの結果から，体力が以前に比べてどのように変化しているかを調べる場面を設定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「Note」で数学的な表現を書くときの具体的な注意点を示している。また，「調べよう」で，学んだ内容を深める活動を取り上げ，生徒のノートを例示している。</li> </ul> <p>&lt;記述ページ数&gt;</p> <table border="1" data-bbox="566 840 1024 990"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>ノート</th> <th>レポート</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>8</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>	学年	ノート	レポート	1	8	2	2	4	2	3	3	3
学年	ノート	レポート												
1	8	2												
2	4	2												
3	3	3												
116 日 文	観点1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次の章の予習として「次の章を学ぶ前に」が明記されている。</li> <li>・ それぞれの単元においてめあてが明記されている。</li> <li>・ 問の後に，「チャレンジ」の問題が明記している。</li> <li>・ 例については，具体的に何について学習するかを明記している。</li> <li>・ その学習で身につけたい数学的な見方・考え方が明記されている。</li> <li>・ 見開きの右ページの下に「次の課題」として，新たな問題が明記されている。</li> <li>・ 節末の問題では振り返ることができるように，学習したときのページが明記されている。</li> <li>・ 問題では振り返ることができるように，学習したときのページが明記されている。</li> <li>・ 技術巻末問題として活用の問題が記載されている。</li> </ul>												
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常生活や社会に関わる題材数 (1年「比例，反比例」「データの活用」「比例，反比例」…30，「データの活用」…17)</li> <li>・ 巻末及び別冊で取り扱われている問題数 (各単元の学習を活用する問題，複数の単元や領域の学習を総合的に活用する問題，生活の中で活用する問題，興味・関心や習熟に応じた問題) 1年…5，2年…6，3年…6 合計…17</li> <li>・ 第2学年の「多角形の内角の和」における学習展開の工夫 (見通しをもたせる工夫) 考え方の例を示して，内角の和の求め方に気付かせる。 (論理的に考察する工夫) 表をもとに，着目すべき点を明確にしなが，スモールステップで</li> </ul>												

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴												
		<p>きまりに気付かせ、公式を考えさせる。 多角形の分け方を変えて発展的に考え説明させる。</p>												
	観点 3	<p>(構成・配列)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2次方程式の解法は「因数分解」→「平方根の考え」→「解の公式」の配列になっている。</li> </ul> <p>(分量)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1年ページ数 252 P, 2年ページ数 196 P, 3年ページ数 226 P</li> </ul>												
	観点 4	<p>イラスト・写真の数と具体例</p> <p>3年「関数 <math>y=ax^2</math>」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ イラスト数 15 <ul style="list-style-type: none"> <li>斜面でボールを転がしたときの、1秒ごとのボールの位置</li> <li>台形の辺上の2つの動点とそれを結んでできる直角三角形など</li> </ul> </li> <li>○ 写真数 3 <ul style="list-style-type: none"> <li>斜面にボールを放り投げた様子</li> <li>パラボラアンテナ</li> <li>懐中電灯</li> </ul> </li> </ul>												
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>問いの傍に「話し合おう」や「説明できるかな？」のように活動内容を示し、数学的な思考力、判断力、表現力等を養うことができるようにしている。</li> </ul> <p>&lt;具体例&gt;</p> <p>2年「データの分布と確率」 大阪の猛暑日が増える傾向にあるかを調べるために、四分位範囲などを用いる場面を設定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>巻末の「対話ノート」は、記入後にノートに貼れるようにしている。</li> </ul> <p>&lt;記述ページ数&gt;</p> <table border="1" data-bbox="558 1344 1021 1500"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>ノート</th> <th>レポート</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>5</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>5</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>	学年	ノート	レポート	1	5	5	2	5	2	3	5	4
学年	ノート	レポート												
1	5	5												
2	5	2												
3	5	4												

様式 1

令和 3 年度に義務教育諸学校で使用する教科用図書の採択に係る答申

山県教科用図書採択地区選定委員会

観点 1	基礎・基本の定着
観点 2	主体的に学習に取り組む工夫
観点 3	内容の構成・配列・分量
観点 4	内容の表現・表記
観点 5	言語活動の充実

教科名	理科
第 1 推薦	6 1 啓林館
第 2 推薦	1 1 学 図

(中学校：理科) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
2 東 書	観点 1	「これまでに学んだこと」を 3 点で整理し、「これから学ぶこと」という枠組を設け、他教科とのつながりも掲載されている。観察・実験の設定総数は 85。補充的な問題が 43.5 ページ。実験観察の安全確保をマークで表している。
	観点 2	コラムは「つながる科学」など 3 種類となっている。各学年の巻頭に「科学で調べていこう」として探究の過程を示しており、キーワードで探究の過程のどの段階を学習しているかを示している。
	観点 3	総ページ数は 922 ページ+付録となっている。ものづくりは 20 と多く設定されている。補充的な観察・実験数は 106。
	観点 4	巻頭・巻末の説明は写真や挿絵を用いながら、簡潔な文章で説明している。
	観点 5	3 年間のレポート例示数は 12 で、学年ごとに 2 ずつ増える。各学年でレポートの書き方の具体例を示して説明している。各学年の巻頭において議論の仕方、発表の仕方、プレゼンテーション資料の作成について視点を示している。
4 大日本	観点 1	導入のページ数が 4 ページ。これまでに学習にしたことを細かく掲載している。単元の中に基本的な内容を確認するための「例題」「演習」「章末問題」を、単元末に「読解力問題」を設定している。補充的な学習は 41 ページ。実験・観察の設定総数は 76。
	観点 2	コラムは「くらしの中の理科」など 4 種類となっている。第 1 学年の巻末に「探究の進め方」として探究の課程を示しており、マークの色を変えることで、重点を置く探究の過程を示している。
	観点 3	総ページ数は 986 ページとなっている。補助的な観察・実験は 113 と多い。発展的な学習は 86 設定されており、学年が上がるにつれて数が増えている。
	観点 4	巻頭で教科書の使い方を示している。見開きで全ての内容を示しているため、情報量が多く、文字が小さい。巻末も含め、写真や図を多く使っており、丁寧な説明で、情報量が多い。

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
	観点 5	3年間のレポート例示数は6つ。第2・3学年の2年間では1つである。第1学年の巻末でレポートの書き方を示し、レポートを作成する学年でのみ具体的な例を示している。第1学年の巻末において話し合いの仕方、発表の仕方、発表の手順を示している。
11 学 図	観点 1	各章の関連する内容の横に「ふりかえり」「つながり」という枠組みを設けている。単元末に「学びを日常にいかしたら」を補助的な問題として設定している。
	観点 2	コラムは「なぜ理科を学ぶの？」など4種類となっている。各学年の巻頭に「探究の進め方」として探究の課程を示しており、キーワードで探究の過程の重点を示している。
	観点 3	総ページ数は840+付録。ものづくりの数も3学年合計で5つ、補充的な実験・観察の数は55、発展的な学習の数は36。
	観点 4	巻頭において理科の学習の仕方などの説明に多くのページを割いている。挿絵を多く用いながらしっかりと説明しているが、情報量が多く、文字が小さい。
	観点 5	3年間のレポート例示数は19。学年順に増え、第3学年で10示している。各学年の巻頭においてレポートの書き方を簡易的に示し、具体例も示している。各学年の巻頭において発表の仕方の視点と発表スライドの作り方を説明している。また、各学年で対話的な会話の視点も示している。
17 教 出	観点 1	各章の導入部に「これまでの学習」という枠組みを設けている。また「思い出そう」「ブリッジ算数」「ブリッジ数学」という枠組を設けて、数学科とのつながりを設定している。各学年末には「学年末総合問題」を設定している。実験・観察の数は71、実験観察の安全確保をマークで表している。
	観点 2	コラムは「ハローサイエンス」の1種類となっている。各学年の巻頭に「探究の進め方」として探究の課程を示しており、「疑問から探究してみよう」を各単元に設定し探究の進め方に沿った学習活動を示している。
	観点 3	総ページ数は1018 ページ+付録。発展的な学習の取り扱い数も78であり。ものづくりの数については合計で10。
	観点 4	巻頭において探求の進め方やレポートの書き方を絵や写真を用いて説明している。文字が大きく読みやすいが、1行が横に長いので、視線の移動量が長い。巻末は写真や図を多用し視線の移動も短くなるよう段組している。

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
	観点 5	3年間のレポート例示数は15。第1学年が最も多い。各学年の巻頭で、レポートの書き方を示しており、具体例も示している。課題や仮説の設定、観察・実験の立案、結果の処理、考察場面において、「話し合おう」というキーワードを用いて話し合い活動を設定しているが、話し合いや発表に関しての視点等は示していない。
61 啓林館	観点 1	基本的な内容を確認するための「例題」「練習」「基本のチェック」を設定している。動画を見ることのできるQRコードを示している。第3学年の巻末には「中学校総合問題」を設定しており、補充的な学習が50ページ。実験・観察の数が76、安全確保をマークで表している。
	観点 2	コラムを部活・料理・防災減災・仕事等に分けて掲載している。探究の過程を各学年の巻頭及び巻末に示しており、各単元の1か所に「探Q実験」を設定し、巻末に添付した「探Qシート」に生徒が書き込むことで、探究の過程に沿った学習活動を行うことができるようにしている。
	観点 3	総ページ数は964ページ+付録である。補助的な実験・観察の数が126、発展的な学習の取扱い数は69。
	観点 4	巻頭では、写真を大きく用いている。教科書の使い方を見開きにまとめている。情報量が多いので、文字は小さい。巻末の資料も、写真を多く用いている。それぞれの内容ごとに簡潔にまとめられているが、説明の文字は小さい。
	観点 5	3年間のレポート例示数は18。学年順に1つずつ増える。各学年でレポートの具体例とレポート作成の要点を示しており、一部に作成のチェックリストも提示している。第1・2学年で話し合いと発表の手順と「話す」「聞く」「話し合い方」の説明をしている。ブレインストーミング、ジグソー法が対話方法の例として示されている。



令和3年度に義務教育諸学校で使用する教科用図書の採択に係る答申

山県教科用図書採択地区選定委員会

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	音 楽〔一般〕
第1推薦	27 教 芸
第2推薦	17 教 出

(中学校：音楽〔一般〕) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
17 教 出	観点1	・目次に続く学びのユニットのページに、題材を「学びのユニット」として表記し、題材名を「ユニット名」として示している。
	観点2	・「感じ取った曲想について」及び「表現を工夫したい点について」をまとめる表の横に、キャラクターの吹き出しで「女声パートを男声パートが追いかけるようになっているのね。」「『生命が羽ばたくとき』の強弱は、mp→mf→f みたいに強くなっていくんだね。」と示している。
	観点3	・各学年とも、歌唱教材、鑑賞教材、創作、学習資料、合唱曲集、国歌「君が代」の順で配列している。その後、「深めてみよう」の歌唱教材・鑑賞教材、合唱曲集、国歌「君が代」、楽典、資料の順で配列している。
	観点4	・「学びのユニット」の図において、「学びの手がかりとなるヒント」として、題材で扱う音楽を形づくっている要素を濃い色で示している。
	観点5	・「春」の鑑賞活動で、「ソネットと音楽の関わりで、いちばんおもしろいと思ったところを、みんなに紹介する文章を書いてみよう。」と示している。
27 教 芸	観点1	・目次に続く学習内容のページに、3つの資質・能力と、それに対応する学習内容や教材を図示している。
	観点2	・工夫したい点についてまとめる際の注目するポイントとして「リズム、テクスチャ（音の重なり方）、強弱、構成」を示し、キャラクターの吹き出しで、「『翼をください』の歌い出しの旋律は、なだらかな音の動きだから、落ち着いた雰囲気です。」「そうだね。伴奏も、4分音符のリズムで静かな感じ。」「でも、強弱記号は歌も伴奏もmfだから、弱々しくしないで、旋律を滑らかに歌いたいな。」「そのためには、息の流れに歌声をのせるイメージで歌えるといいね。」と示している。
	観点3	・第1学年は、歌唱教材、鑑賞教材、合唱曲集、楽典、国歌「君が代」の順で配列しており、創作については、関連する歌唱教材及び鑑賞教材の後に配列している。第2・3学年は、歌唱教材、創作、鑑賞教材、合唱曲集、楽典、国歌「君が代」の順で配列している。
	観点4	・音楽を形づくっている要素を、見開き左ページ下に示している。
	観点5	・「この曲のどのようなところによさを感じましたか。また、その理由も発表しましょう。」と示している。キャラクターの吹き出しでは、「B」でヴァイオリンの独奏が小鳥の鳴いている様子をまねているのが印象的でした。「爽やかな部分と激しい部分の対比がかっこいいと思いました。」と示している。

令和3年度に義務教育諸学校で使用する教科用図書の採択に係る答申

山県教科用図書採択地区選定委員会

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	音 楽〔器楽〕
第1推薦	27 教 芸
第2推薦	17 教 出

(中学校：音楽〔器楽〕) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
17 教 出	観点1	<ul style="list-style-type: none"> <li>目次ページに、「演奏の仕方を身につけよう」「合わせて演奏しよう」と示している。</li> <li>各楽器の各部の名称，姿勢とかまえ方，奏法等を写真や図で順序立てたり，手を大きく写したりして示している。</li> </ul>
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> <li>演奏者を正面から見た角度と上から見た角度の写真に掲載している。親指による基本的な奏法について説明している。</li> </ul>
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽器は，アルトリコーダー・ギター・箏・三味線・篠笛・太鼓・尺八・打楽器（5種類）を取り上げている。</li> </ul>
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> <li>唱歌の説明とともに，尺八，箏，三味線，太鼓の唱歌の例を示している。キャラクターによるせりふで，「実際に唱歌を唱えてみましょう。」と示している。</li> </ul>
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> <li>「グループに分かれて基本形を演奏します。速度や強弱などは，グループで話し合っ確認しておきましょう。」と言語活動のポイントなどを示している。</li> </ul>
27 教 芸	観点1	<ul style="list-style-type: none"> <li>目次に続く学習内容のページに，3つの資質・能力と，それに対応する学習内容や教材を図示している。</li> <li>各楽器の各部の名称，姿勢とかまえ方，奏法等を写真や図で示している。</li> </ul>
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> <li>演奏者を正面から見た角度と上から見た角度の写真に掲載している。親指，中指，人さし指による基本的な奏法について説明している。</li> </ul>
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽器は，アルトリコーダー・ギター・箏・三味線・篠笛・太鼓・尺八・打楽器（15種類）を取り上げている。</li> </ul>
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> <li>『六段の調』から“四段”において，「唱歌を歌ったり楽器を弾いたりしながら，箏の音楽の特徴を感じ取りましょう。」と示している。「唱歌を歌ってみよう」では，歌うときのポイントを3つ示している。</li> </ul>
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習過程①，②が示され，「①で感じ取ったことをもとに，友達と話し合いながら曲全体のアーティキュレーションを決め，2つのパートに分かれて演奏しましょう。」と示され，キャラクターの吹き出しで「長くのばす音にはどんなアーティキュレーションを使えばいいかな？」「アイデアを楽譜に書いておくと演奏に役立つね。」などと示している。</li> </ul>

令和3年度に義務教育諸学校で使用する教科用図書の採択に係る答申

山県教科用図書採択地区選定委員会

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	美術
第1推薦	38 光村
第2推薦	116 日文

(中学校：美術) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
9 開隆堂	観点1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材の目標は、題材で身につけたい力を「知識や技能に関する目標」、「思考力・判断力・表現力に関する目標」、「学びに向かう力に関する目標」の3つの目標とし、マークとともに示している。</li> <li>・[共通事項]を視点とした学び方は、「学習のポイント」や学習の進め方を示すコーナーに、[共通事項]に着目するよう促すコメントを載せている。</li> </ul>
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冒頭に、表紙と連動した「発見と創造」【1】「探究と継承」【2・3】と題するページを設けている。</li> <li>・作家や生徒の作品とともに、生徒の活動の様子を写真で示している。</li> <li>・表現と鑑賞のページをそれぞれ独立して示している。</li> <li>・3年間の学習のまとめとして、「美術の力を生かして社会とかかわる」、「私たちの社会と美術」の特設ページを設け、社会における美術の役割等を示している。【2・3】</li> </ul>
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「美術1」、「美術2・3」の2冊で構成している。</li> <li>・題材を分野等に分けて配列している。「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」「学びの資料」、「美術2・3」のみ「鑑賞」「まとめ」</li> </ul>
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材のメインタイトルの横に学習目標の3本柱を示している。</li> <li>・美術1、美術2・3に分けている。絵や彫刻で学ぶこと、デザインや工芸で学ぶこと、学びの資料、表現、鑑賞を色分けした文字・タグで示している。</li> <li>・高村光太郎の作品を取り上げ、作品の解説を表記している。【1】</li> <li>・「学びの地図 形と色彩の冒険に出よう！」に絵、彫刻、デザイン、工芸、鑑賞のそれぞれの授業風景の写真と解説を示している。</li> <li>・全体を通して、「学習のポイント」を呼びかけの形式で示している。</li> </ul>
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術作品、生徒作品とともに作者の言葉を示している。</li> <li>・デザイナーのインタビューなどを掲載している。</li> <li>・仲間と調査し、考え、話し合う過程を写真で示している。</li> </ul>

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
38 光 村	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材の目標は、題材を通して身につける力を目標として、「表現」と「鑑賞」の領域ごとに示している。</li> <li>・[共通事項]を視点とした学び方は、「表現」と「鑑賞」のアイコンの横に、[共通事項]を視点とした活動を促す文を載せている。</li> </ul>
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作家や生徒の作品とともに、工夫点を確認し、自分の表現に生かすヒントにするために「みんなの工夫」のコーナーでは、生徒の制作過程を示している。</li> <li>・「最後の晚餐」のページの前に、消失点を探すためのトレーシングペーパーを添付している。</li> <li>・巻末資料の中に、“地域と美術とのつながり”や“美術の力”と題したページを設け、社会における美術の働き等を示している。【2・3】</li> </ul>
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「美術1」、「美術2・3」の2冊で構成している。</li> <li>・題材を分野等に分けて配列している。「はじめに」「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」「学習を支える資料」</li> <li>・「学習を支える資料」の3年間の合計ページ数が、52ページ。</li> </ul>
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材のメインタイトルの下に目標を示している。</li> <li>・美術1、美術2・3に分けている。</li> <li>・生徒が撮った写真とコメント、活動している場面の写真と解説文を掲載している。</li> <li>・「絵や彫刻など」、「デザインや工芸など」、「学習を支える資料」を色分けして示している。</li> <li>・「中学校3年間で学習すること」と示している。</li> <li>・鑑賞のページでは、材質の違う紙に印刷している。</li> <li>・4ページが見開きページになっており、俵屋宗達の風神雷神図屏風の写真を掲載している。</li> <li>・他教科とのつながりを作品の写真と解説文で示している。</li> </ul>
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真とともに生徒の書いたコメントを掲載している。</li> <li>・作家の発想・構想について作家自身の文章で示している。</li> <li>・作品制作の段階で、生徒同士が話し合っている写真とコメントを掲載している。</li> </ul>
116 日 文	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材の目標は、題材で身につけたい力を3つの「学びの目標」とし、「造形的な見方を豊かにする視点や、技能に関する目標」、「発想や構想、鑑賞に関する目標」、「主体的に学習に取り組むための目標」をマークとともに示している。</li> <li>・[共通事項]を視点とした学び方は、「造形的な視点」の吹き出しに、[共通事項]に着目するよう促す文を載せている。</li> </ul>

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冒頭に「この教科書で学ぶみなさんへ・目次」を掲載している。</li> <li>・作家や生徒の作品とともに、生徒の活動の様子を写真で示している。</li> <li>・「社会に生きる美術の力」のページに、美術に直接携わる仕事でない3名の紹介とインタビューで、美術の学びが社会や生活の場面で生かされていることを示している。【2・3下】</li> </ul>
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「美術1」、「美術2・3上」、「美術2・3下」の3冊で構成している。</li> <li>・題材を分野等に分けて配列している。「オリエンテーション」「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」「学びを支える資料」</li> <li>・「デザインや工芸など」の3年間の合計ページ数が、52ページ。</li> </ul>
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材のメインタイトルの上にサブタイトルで活動や目的を示し、その横に学びの目標の3本柱を示している。</li> <li>・美術1、美術2・3上、下に分かれている。</li> <li>・3冊にそれぞれ「学びの言葉」として、シンガーソングライター 松任谷由美をはじめ著名人の写真とコメントを掲載している。</li> <li>・「中学校美術の世界へようこそ」では、生徒作品と生徒の制作活動の写真を用いて、図画工作から中学校美術1～3年の学習の系統性を示している。</li> <li>・生徒作品と制作風景と作者の言葉を掲載している。</li> <li>・鑑賞の導入の「鑑賞との手合い 見方や感じ方を広げよう」では、作品の活動風景の写真を掲載している。</li> <li>・4ページが見開きページで緒方光琳の燕子花図と解説文を掲載している。</li> <li>・神奈川沖浪裏の原寸大の写真を掲載している。</li> </ul>
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学びの言葉」として、著名人の文章を掲載している。</li> <li>・作品の側には作者の言葉を掲載している。</li> <li>・発想、構想を練る時に考えたアイデアスケッチと生徒の文章を実際のスケッチブックの写真で示している。また、生徒作品とともに生徒の書いた文章の写真を掲載している。</li> <li>・2・3下の最後のページに「あなたへ 明日への巣立ち」の文章を掲載している。</li> </ul>

山県教科用図書採択地区選定委員会

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	保健体育
第1推薦	2 東 書
第2推薦	2 2 4 学 研

(中学校：保健体育) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
2 東 書	観点1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習得すべき基本用語を次のように示している。 「キーワード」として各時間の学習課題と一緒に示し、本文中で強調表記にしている。また、巻末に「キーワードの解説」を掲載している。</li> <li>・各章末に「学習のまとめ」として「確認の問題」「活用の問題」「日常生活に生かそう」を掲載している。</li> </ul>
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1時間の流れの最後に「広げる」で自他の生活に当てはめる活動を掲載している。</li> <li>・「D」マークで、インターネットを使った学習ができることを示している。</li> <li>・「読み物」として、学習内容に関連する資料を掲載している。</li> </ul>
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文、「巻頭・巻末資料」、「章末資料」、「読み物」、「技能・実習資料」の5部構成で、「章末資料」には、各章の内容についての補助的・発展的な教材を掲載している。</li> <li>・各学年の学習内容を、「保健編」、「体育編」の順で配列している。</li> <li>・感染症の予防について、インフルエンザによる緊急事態宣言の有効性について掲載している。</li> <li>・自然災害から身を守るために、警報や注意報でとるべき行動の確認について最新の情報で掲載している。</li> </ul>
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「活用する」では、学習内容と実生活とを結びつけて考えさせる課題を示している。</li> <li>・本文を補足するための資料として、写真や図表を多く掲載している。</li> </ul>
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「課題の解決」の「活用する」で、自分の考えをまとめ表現できるようにしている。</li> <li>・单元ごと「学習のまとめ」の中に「活用の問題」「日常生活に生かそう」など自分の生活に活用できる学習活動を記載している。</li> </ul>
4 大日本	観点1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習得すべき基本用語を次のように示している。 「キーワード」として示し、本文中で強調表記にしている。</li> <li>・各章末の「学習のまとめ」で重要語句や要点の再確認ができるようにしている。また、ウェブサイトの「まとめの問題」で学習ができるようにしている。</li> </ul>

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「WEB」マークで、インターネットを使った学習ができることを示している。</li> <li>・「トピックス」として、学習内容と関連するデータや読み物資料を掲載している。</li> </ul>
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文、「口絵・資料」、「章末資料」、「学びを活かそう」、「学習のまとめ」の5部構成で、「学びを活かそう」には、各章の学習内容をもとに議論するための教材を掲載している。</li> <li>・各学年の学習内容を、「体育編」、「保健編」の順で配列している。</li> <li>・感染症の予防について、インフルエンザ予防のためにできることについて掲載している。</li> </ul>
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学習内容において、はじめに「学習のねらい」を表記し、最後に重要語句を「キーワード」として表記している。</li> <li>・見開き2ページの左ページに本文、右ページに資料を載せている。</li> </ul>
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元ごとに「学びを活かそう」を設定し、自分の生活に活用できるよう記入欄を広く設けている。</li> </ul>
50 大修館	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習得すべき基本用語を次のように示している。 「キーワード」として示し、本文中で強調表記にしている。また、巻末に「用語解説」を掲載している。</li> <li>・各章末の「章のまとめ」で「知識・技能の確認問題」「思考・判断・表現の問題」「学びに向かって」「学習の振り返り」を掲載している。</li> </ul>
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各章のはじめに、小学校、中学校、高校の学習内容を示しており、内容のつながりを確認することができる。</li> <li>・「web保体情報館」で、参考になる情報を調べることができる。</li> <li>・「コラム」「事例」「体育の窓」「保健の窓」に分けて、学習内容の理解を補助する話題を掲載している。</li> </ul>
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文、「巻頭・巻末資料」、「特集資料」、「コラム／事例／体育の窓／保健の窓」の4部構成で、「特集資料」には、各章の内容についての補助的・発展的な教材を掲載している。</li> <li>・各学年の学習内容を、「体育理論」、「保健」の順で配列している。</li> <li>・感染症の予防について、「コラム」でマスクをつける理由や3つの咳エチケットについて掲載している。</li> </ul>
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学習のまとめ」では、本文で学習したことと実生活とを結びつけて考える課題を提示している。</li> <li>・資料に掲載しているグラフのいくつかに、グラフからわかることを「よみ取る」として付け加えて表記している。</li> </ul>
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元ごとに「章のまとめ」を設定し、「思考・判断・表現」の問題を取り入れている。</li> </ul>
224 学 研	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習得すべき基本用語を次のように示している。 「キーワード」として示し、本文中で強調表記にしている。</li> <li>・各章末の「章のまとめ」で「振り返ろう」「確かめよう」「生かそう」「生活への活用」を掲載している。</li> </ul>

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「教科書サイト」で動画や関連サイトで学習できるようにしている。</li> <li>・「コラム」として、学習内容に関連する内容の読み物資料を掲載している。</li> </ul>
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文、「口絵」、「探究しようよ!」、「章のまとめ」、「コラム」の5部構成で、「探究しようよ!」には、各章の内容についての補助的・発展的な教材を掲載している。</li> <li>・各学年の学習内容を、「体育編」、「保健編」の順で配列している。</li> <li>・感染症の予防について、学級閉鎖の時にどのように過ごすか掲載している。</li> <li>・自然災害から身を守るために、警報や注意報ととるべき行動の確認を最新の情報で掲載している。</li> </ul>
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「課題をつかむ」、「考える・調べる」、「まとめる・深める」では、それぞれに「判断する・交流する」など、どのような活動を行うか表記している。</li> <li>・各学習内容について、本文のはじめには、学習内容に関する問いを表記している。</li> </ul>
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元ごとに「探究しようよ!」を2ページにわたって設定している。</li> <li>・「章のまとめ」の中に「生かそう」を取り入れ、自分の生活に活用できる学習活動を記載している。</li> </ul>



令和 3 年度に義務教育諸学校で使用する教科用図書の採択に係る答申

山県教科用図書採択地区選定委員会

観点 1	基礎・基本の定着
観点 2	主体的に学習に取り組む工夫
観点 3	内容の構成・配列・分量
観点 4	内容の表現・表記
観点 5	言語活動の充実

教科名	技術・家庭(技術分野)
第 1 推薦	2 東 書
第 2 推薦	9 開隆堂

(中学校：技術・家庭科 技術分野) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
2 東 書	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>各内容とも項目ごとに、「目標」マークが付けられ、目標が示されるとともに、「キーワード」マークが付けられ、関連する語句が示されている。基礎的・基本的な知識及び技能のポイントとして、「ポイント」の囲みが 62 か所、「テックラボ」として、工程ごとの基礎的・基本的な技能が 24 ページ掲載されている。</li> <li>教育の ICT 化の視点から、基礎的・基本的な知識及び技能の定着のために、「D」マークが 21 か所表示され、デジタルコンテンツを利用し、学習できるように示されている。</li> </ul>
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>各内容の最初のページ見開きで、左ページに「技術の見方・考え方」、右ページに「発見！技術の最適化」が掲載され、身近な製品の具体例とともに、既存の技術の工夫について示されている。また、各内容第 1 章の最後に、「チェック 技術の見方・考え方」が掲載され、気付いた技術の見方・考え方について、まとめることができるように示されている。</li> <li>各内容において、技術による問題の解決の学習過程ごとに、「問題解決カード」が示され、問題の解決の進め方の具体例が掲載されている。</li> </ul>
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガイダンス的内容として 19 ページ、「材料と加工の技術」66 ページ、「生物育成の技術」46 ページ、「エネルギー変換の技術」56 ページ、「情報の技術」62 ページ、「総合的な問題解決」6 ページ。</li> <li>教科書の末尾に、「技術分野の学習を終えて」として、4 ページにわたり掲載されている。</li> <li>小学校での学習の振り返りも兼ね、コンピュータの使い方が 10 ページにわたって示されている。「今すぐできる！プログラミング手帳」が掲載されている。</li> </ul>
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>カリキュラムマネジメントの視点から、中学校の各教科等の学習内容との関連について、「他教科」マークが用いられ、教科、学年、単元概要が示されている。</li> <li>導入やまとめの活動内容が全見開き、同じ位置に配置されている。</li> <li>問題解決例は、「問題の発見」、「課題の設定」を同じ位置に配置され、製作、制作、育成の手順について、手順ごとに番号と写真を用いて示されている。</li> </ul>

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活や社会をよりよくするための方法を考えたり，説明したりする学習活動として，「活動」「調べてみよう」「やってみよう」「考えてみよう」「話し合ってみよう」で示されている活動が取り上げられている。</li> </ul>
6 教 図	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>各内容とも項目ごとに，「めあて」マークを付け，目標を示すとともに，「キーワード」マークを付け，関連する語句を示している。</li> <li>基礎的・基本的な知識及び技能のポイントとして，「基礎技能」の囲みが 42 か所、ハンドブックには 20 個の基礎技能が掲載されている。</li> <li>教育の ICT 化の視点から，基礎的・基本的な知識及び技能の定着のために，「QRコード」が 58 か所（うちハンドブック 15 か所）表示され，デジタルコンテンツを利用し，学習できるように示されている。</li> </ul>
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>各内容の最初のページ見開きで，各内容における技術の発展の具体例を取り上げるとともに，技術を最適化する際の着目する視点について記載している。</li> <li>各内容の設計・計画において，「問題を発見する」，「目的や条件をもとに構想（育成計画）を考える」，「構想（育成計画）を具体化する」，「設計（育成計画）をまとめる」という技術の問題の解決の学習過程が示され，学習過程ごとに具体例が掲載されている。</li> </ul>
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガイダンス的内容として 8 ページ，「材料と加工の技術」 64 ページ，「生物育成の技術」 38 ページ，「エネルギー変換の技術」 60 ページ，「情報の技術」 80 ページ，「夢をかなえる技術」 14 ページ。</li> <li>「技術で創造する社会 -Society5.0-」として未来の社会像「Society5.0」の特集が掲載されている。</li> <li>教科書の末尾に，4 領域に関わる「夢をかなえる技術」が 14 ページにわたって示されている。</li> </ul>
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>カリキュラムマネジメントの視点から，中学校の各教科等の学習内容との関連については，「リンク」マークを示し，教科を示している。</li> <li>「見つける」「学ぶ」「振り返る」を基本配列とし，レイアウトされている。</li> <li>題材例は，製作，制作，育成の手順について，手順ごとに番号と写真が用いられ示されている。</li> <li>ガイダンスに特別支援学校での実習の事例が掲載されている。</li> </ul>
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活や社会をよりよくするための方法を考えたり，説明したりする学習活動として，「やってみよう」で示されている活動が取り上げられている。</li> </ul>

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
9 開隆堂	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各内容とも項目ごとに、「学習の目標」の囲みを設け、目標を示している。</li> <li>・基礎的・基本的な知識及び技能のポイントとして、「動作のポイント」マークを 21 か所、学習の参考になる内容や資料・解説として、「参考」の囲みを 100 か所掲載している。</li> <li>・教育の ICT 化の視点から、基礎的・基本的な知識及び技能の定着のために、「QR コード」が 56 か所表示され、デジタルコンテンツを利用し、学習できるように示されている。</li> </ul>
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンスにおいて、「知識や技能を身につける」「問題から課題を考え、ものを作ることで課題を解決する」「学習したことを社会に生かす」の学習過程が漫画で解説され、社会でのものづくりの過程の具体例が掲載されている。</li> <li>・各内容において、「問題解決の流れ」の項目が示され、「問題の発見と課題の設定」「設計と試作」「製作」「成果の評価と改善」などの技術による問題の解決の学習過程の具体例が掲載されている。</li> </ul>
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンス的内容として 18 ページ、「材料と加工の技術」70 ページ、「生物育成の技術」42 ページ、「エネルギー変換の技術」50 ページ、「情報の技術」68 ページ。</li> <li>・教科書の末尾に、「技術分野の学習をふり返り、私たちの未来へつなげよう」として 4 ページ設け、問題解決のふり返りや技術と主体的に関わり合う態度を養う場を設定している。また、「資料」としてコンピュータの操作やプログラミングについて 18 ページにわたって掲載している。</li> <li>・日本の伝統・文化の素晴らしさを伝えるねらいで巻末に「日本各地の伝統的な技・材料・工芸 MAP」を掲載している。また、その裏には携帯電話の利用についての資料を掲載している。</li> </ul>
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムマネジメントの視点から、中学校の各教科等の学習内容との関連について、「他教科」マークが用いられ、教科、学年、単元概要が示されている。(13)</li> <li>・導入の活動内容は、全見開きで同じ位置に配置され、活動内容をマークと太字、枠囲いで強調されている。</li> <li>・実習例は、「身近な問題の発見」「課題の設定」「設計・製作」「評価・改善」などの学習の過程ごとに枠囲いされ、流れが図示されている。</li> </ul>
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活や社会をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする学習活動として、「課題」「調べてみよう」「考えてみよう」「話し合ってみよう」「確認してみよう」「やってみよう」で示されている活動が取り上げられている。</li> </ul>

令和3年度に義務教育諸学校で使用する教科用図書の採択に係る答申

山県教科用図書採択地区選定委員会

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	技術・家庭(家庭分野)
第1推薦	2 東 書
第2推薦	9 開隆堂

(中学校：技術・家庭科 家庭分野) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
2 東 書	観点1	<ul style="list-style-type: none"> <li>各内容とも項目ごとに、「目標」マークを付け、目標が1つ又は2つ示されるとともに、「キーワード」マークを付け関連する語句が示されている。</li> <li>基礎的・基本的な知識及び技能の定着のために、コンテンツを利用して動画等で学習内容を確認することができるように、「D」マークが44か所表示されている。</li> </ul>
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> <li>「家庭分野のガイダンス」において、生活の営みに係る見方・考え方がマークやイラストを用いて解説されている。</li> <li>各編末の「学習のまとめ」において、学習したことを振り返り、興味・関心を持ったこと、自分や家族の生活で改善できることなどを記述する欄を設け、キャラクターの吹き出しとして「生活の課題と実践にも取り組もう。」と示されている。</li> </ul>
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガイダンス、食生活、衣生活、住生活、消費生活・環境、家族・家庭生活、選択事項(生活の課題と実践)の順に配列されている。</li> <li>「B衣食住の生活」の日常食の調理における調理実習例が、52例掲載されている。</li> <li>「B衣食住の生活」の布を用いた物の製作例が、16例掲載されている。</li> </ul>
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校の各教科等の学習内容との関連については「他教科」マークが示され、教科名、単元概要が示されている。また、関連する他教科内容をコンテンツとして見ることができるものにDと丸を重ねたマークが示されている。</li> <li>技術分野や家庭分野の他の章などに、関連する内容があるものについては「リンク」マークが示され、掲載ページと内容が示されている。</li> <li>発展のマークが付されている。具体例が8か所掲載されている。</li> <li>内容ごとに基本色を設定し、見開き右側上部にインデックスが示されている。</li> <li>教育漢字以外の漢字にはすべて丸ゴシック体でふり仮名が付されている。</li> <li>実習・製作の作業手順を横向きの配置に統一されている。</li> <li>食品群別摂取量の目安については、実際の食事の量のイメージ化を容易にするため、食品の概量を基に各群の各食品の目安量を実物大の写真で示され、その食品で作成した1日分の献立例が示されている。</li> </ul>

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>主に「活動」のマーク及び「話し合ってみよう」や「考えてみよう」などのマークが示されているところで、生活をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする活動が 103 か所取り上げられている。</li> </ul>
6 教 図	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>各内容とも項目ごとに、「めあて」マークを付け、目標を1つ又は2つ示されるとともに、「キーワード」マークを付け関連する語句が示されている。</li> <li>基礎的・基本的な知識及び技能の定着のために、コンテンツを利用して動画等で学習内容を確認することができるように「QRコード」が 55 か所表示されている。</li> </ul>
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学習の導入において、生徒や教師との対話の場面を「見つめる」で示され、吹き出しを用いて、生活の営みに係る見方・考え方の視点が例示されている。</li> <li>各章末の「学びを生かそう」において「課題設定のヒント」を示され、見方・考え方の視点で振り返りができるように支援されている。</li> <li>各章のまとめりに「学びを生かそう」を設定し、ここまでの学習を生かして課題に取り組む例が記載されている。「問題解決学習の流れ」に即した実践事例とともに、「さらに『生活の課題と実践』にも取り組んでみよう！」と示されている。</li> </ul>
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガイダンス、家族・家庭生活、食生活、衣生活、住生活、消費生活・環境、選択事項(生活の課題と実践)の順に配列されている。</li> <li>「B衣食住の生活」の日常食の調理における調理実習例が、49 例掲載されている。</li> <li>「B衣食住の生活」の布を用いた物の製作例が、7 例掲載されている。</li> </ul>
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校の各教科等の学習内容や小学校の各教科等の学習内容との関連、および家庭分野の他の章などに関連する内容があるものについては「リンク」マークで示されている。各教科等の学習内容については、教科名、単元概要が示されている。小学校の各教科等の学習内容との関連については、教科名、単元・題材概要が示されている。家庭分野の他の章などに関連する内容があるものについては、掲載ページと内容が示されている。</li> <li>「発展」のマークが付されている。具体例が6か所掲載されている。</li> <li>内容ごとに基本色が設定され、見開き左側上部及び右側にそれぞれインデックスが示されている。</li> <li>中学校以降で学習する漢字には、見開きページごとの初出でふり仮名が付されている。</li> <li>実習・製作の作業手順を縦向きの配置に統一されている。</li> <li>食品群別摂取量の目安については、実際の食事の量のイメージ化を容易にするため、食品の概量を基に各群の各食品の目安量を実物大の写真で示され、その食品で作成した1日分の献立例が示されている。</li> </ul>

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>主に「話し合ってみよう」や「考えてみよう」などのマークが示されているところで、生活をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする活動が 109 か所取り上げられている。</li> </ul>
9 開隆堂	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>各内容とも項目ごとに、「学習の目標」の欄を付け、目標を 1 つ又は 2 つ示されている。</li> <li>基礎的・基本的な知識及び技能の定着のために、コンテンツを利用して動画等で学習内容を確認することができるように、「QR」マークが示されているとともに、「QRコード」が 64 か所表示されている。</li> </ul>
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>各章末の「ふり返り」において章内の学習を基に見方・考え方を働かせて生活を捉えるための問いが設定されている。</li> <li>「生活の課題と実践」として、生活の課題と実践についての説明を見開きで示されている。</li> <li>「生活の課題と実践」として、生活の課題と実践の進め方、実践のまとめ方、実践例（合計 12 事例）が示されている。</li> </ul>
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガイダンス、家族・家庭生活、食生活、衣生活、住生活、消費生活・環境、選択事項(生活の課題と実践)の順に配列されている。</li> <li>「B衣食住の生活」の日常食の調理における調理実習例が、43 例掲載されている。</li> <li>「B衣食住の生活」の布を用いた物の製作例が、9 例掲載されている。</li> </ul>
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校の各教科等の学習内容や技術分野との関連については、「他教科・他分野」との関連マークが右頁上部に示され、教科名、単元概要が示されている。</li> <li>家庭分野の他の学習項目や技術分野などに関連する内容があるものに、「リンク」マークが示され、掲載ページと内容が示されている。</li> <li>「発展」のマークが付されている。具体例が 9 か所掲載されている。</li> <li>内容ごとに基本色が設定され、見開き左側上部にインデックスが示されている。</li> <li>中学校以降で学習する漢字には、見開きページごとの初出箇所により仮名が付されている。</li> <li>実習・製作の作業手順を横向きの配置に統一されている。</li> <li>食品群別摂取量の目安については、実際の食事の量のイメージ化を容易にするため、食品の概量を基に各群の各食品の目安量を実物大の写真で示され、その食品で作成した 1 日分の献立例が示されている。</li> </ul>
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>主に「話し合ってみよう」や「考えてみよう」などのマークが示されているところで、生活をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする活動が 51 か所取り上げられている。</li> </ul>

令和3年度に義務教育諸学校で使用する教科用図書の採択に係る答申

山県教科用図書採択地区選定委員会

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	英語
第1推薦	2 東 書
第2推薦	9 開隆堂

(中学校：英語) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
2 東 書	観点1	○目次に各 Unit の「活動目標 (GOAL)」を提示している。 ○単元である Unit ごとに目標を提示している。
	観点2	○「GOAL」として、単元の最初に目標を設定し、単元末に「CHECK」として、「題材」と「活動」について4段階で評価するようにしている。 ○巻末に「学習を振り返ろう CAN-DO リスト」を設定し、各学年の5領域別の学習到達目標を Stage 1～Stage 3 まで示し、4段階で評価するようにしている。
	観点3	○Unit 0 ・それぞれの場面の活動をしよう ・英語の音と文字 *Unit 1～小学校既習事項には「小」のマークがついている (p.10「小学校の単語」) *p.121 までは小学校外国語教育教材と同じフォントを使用している。
	観点4	○「資料編」として、次の資料を掲載している。(pp.128～159：32 ページ分)
	観点5	○Stage Activity1：My Activity Report (pp.48～50) (テーマ) これまでの経験をふり返って活動報告を発表する。
9 開隆堂	観点1	○単元である PROGRAM ごとに目標を提示している。
	観点2	○”Goal”として、単元の最初に目標を、単元内に振り返りを設定し、達成していればチェックを入れるようにしている。 ○巻末資料に「英語で『できるようになったこと』リスト」として、5領域別に学習到達目標を設定し、達成していれば日付を記入するようにしている。
	観点3	○Get Ready1～4 ・ようこそ！みらい中学校へ ・みらい中学校の仲間たち ・新しい仲間インタビューしよう ・自分のことを友達に知ってもらおう ○PROGRAM 0 ・アルファベットを確かめよう ・つづり字と発音 *1年生の前半は (p.52 まで)、小学校外国語教育教材と同じフォントを使用している。
	観点4	○「巻末資料」として、次の資料を掲載している。(pp.126～159：34 ページ)
	観点5	○Our Project8：あなたの町を世界に PR しよう (pp.85～89) (テーマ) 世界に PR したい町にあるものや場所を発表する。
16 三省堂	観点1	○単元である Lesson の活動ごとに領域別の目標を提示している。
	観点2	○巻末に、「What Can I Do?」として、CAN-DO リストを示し、5領域別の学習到達目標を設定し、達成していればチェックを入れるようにしている。

発行者名	主たる観点	主たる特徴
	観点3	○Hello, Everyone! ○Starter1～3 ・英語の文字と音 ・コミュニケーションを楽しもう (1) (2) *Lesson1～3 小学校で体験した場面で話される会話を「聞く・話す」ところから始まっている (p.17)。
	観点4	○「付録」として、次の資料を掲載している。(付録1～50:50ページ分)
	観点5	○Project1: 日本限定のアイスクリームを提案しよう (pp.32～33) (テーマ) 日本限定のアイスクリームのアイデアを考え、提案する。
17 教出	観点1	○単元である Lesson 中の Part ごとに目標を提示している。
	観点2	○単元末に振り返りを設定している。 ○付録に「Can-Do 自己チェックリスト」を示し、5領域別の学習到達目標を設定し、4段階で評価するようにしている。
	観点3	○Springboard1・4 ・Nice to meet you! ・さまざまな会話 ・音声から文字へ ・ Sugoroku *Lesson1・3 身近な生活に則したコミュニケーション活動を重視している。 *Word List (pp.148～151) の中に、小学校で学習したとみなした語を意味別グループで示している。
	観点4	○「巻末資料」として、次の資料を掲載している。(pp.130～167:44ページ分)
	観点5	○Project1: CM をつくって発表しよう! (pp.40～41) (テーマ) あったら良いと思う商品やサービスについて CM を作り、発表する。
38 光村	観点1	○単元である Unit ごとに関連する領域別の目標を提示している。
	観点2	○「Goal」として、単元の最初に領域別の目標を、設定している。単元の最後に、振り返りを設定している。 ○巻末付録に、CAN-DO List を示し、5領域別に学習到達目標を設定し、4段階で評価するようにしている。
	観点3	○Let's Be Friends!1～7 ・言葉で人とつながろう ・好きなものでつながろう ・世界のどこかへ行ってみよう ・数字を聞いて動物を探し出そう ・誕生日をたずね合おう ・アルファベットを聞いて書こう ・英語の音とつづりを確かめよう *Unit3 までを、準備期間として文字を読む負担を減らしている。 *Word List (p.158) の中に小学校で学習した語を花びらマークで示している。
	観点4	○「付録」として、次の資料を掲載している。(p.3 参照:9ページ分)
	観点5	○You Can Do It!2: 学校に必要なものを考えて意見を伝えよう (pp.48～49) (テーマ) 学校に必要なものについて考え、ディスカッションする。
61 啓林館	観点1	○単元である Unit の Part ごとに目標を提示している。
	観点2	○単元の最初に単元の目標を設定している。 ○巻末に「Can-Do リスト」として、5領域別の学習到達目標を設定し、達成していればチェックを入れるようにしている。
	観点3	○Let's Start!1～7 ・学校での会話を聞こう ・町での会話を聞こう ・アルファベットを読み書きしよう ・英語の文字が表す音を聞こう ・英語の文字が表す音に慣れよう ・数字を聞いて使ってみよう ・英語を聞いて使ってみよう *小学校英語でも採用されている 5:6:5 の4線を使用
	観点4	○「付録」として、次の資料を掲載している。(p.3 参照:4ページ分)
	観点5	○Project2: 日本の伝統行事を紹介しよう (pp.90～91) (テーマ) 紹介したい日本の伝統行事について、紹介文を書く。

(表中のページは、観点3は1年の教科用図書のページを、他は2年の教科用図書のページを示している。)



令和3年度に義務教育諸学校で使用する教科用図書の採択に係る答申

山県教科用図書採択地区選定委員会

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	特別の教科 道徳
第1推薦	2 東 書
第2推薦	3 8 光村

(中学校：特別の教科 道徳) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
2 東 書	観点1	オリエンテーションのタイトルは、「道徳の授業はこんな時間に」とし、巻頭折り込み3ページに、学習の流れを示している。また、巻頭折り込み1ページで「話し合いの手引き」を示している。「1年間で学ぶこと」とし、見開き2ページで4つの視点ごとに1年間で学ぶ内容項目と教材名を示している。発問は、教材文の終わりに「考えてみよう!」「自分を見つめよう」のコーナーにマークと共に記載し、発問を2～3示している。
	観点2	問題解決学習を取り入れた工夫では、2つの教材を配置し、教材冒頭にテーマを示している。【2年P129～134】 体験的な学習を取り入れた工夫では、直前の教材に関連した体験的な学習を促す教材を、掲載すると共に、動作や演技に関するマークを目次、該当ページに示している。【3年P100・P101】
	観点3	分量は、AB版196～204ページある。教材数は、Cが43教材、その他は、A21, B22, D25と配分されている。 現代的な課題等を踏まえ、3つの教材で構成されたいじめ問題対応ユニット「いじめのない世界へ」を4～5月に設け、目次に桃色の枠囲みで示している。【1年P22～32】
	観点4	巻頭には、各学年「話し合いの手引き」「道徳の授業はこんな時間に」と折り込みページで示している。巻末には、各学年「テーマで振り返ろう」とし、6つのテーマで教材を分類して示している。また、切り取り式のホワイトボード用紙、心情円を設けている。教材の内容を理解させる工夫として、「アクション」「プラス」のマークやDマーク、教科関連マーク、心情円等のマークを設定している。
	観点5	考えを伝え合う活動の工夫は、巻頭「道徳の授業はこんな時間に」の中に、「話し合いの手引き」を示すと共に、ショートストーリーを例に話し合いの具体的な流れを示している。【1年P3～6】 教材の中に、話し合いを促す発問を示している。【1年P86～87】 考えをまとめたり、振り返ったりする活動の工夫は、巻末に、心に残った教材や授業で学んでよかったこと、来期の取り組み方等を記録する、振り返りのページ「自分の学びを振り返ろう」を設けている。【3年P193～197】 【3回分】

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
17 教 出	観点1	<p>オリエンテーションのタイトルは、「道徳科で学びを深めるために」とし、見開き2ページに授業でどのように学んでいくのかを4つで示している。また、見開き2ページで「この教科書で学んでいくテーマ」とし、道徳科で考えていきたいテーマを7つ、教材名とともに示している。発問は、冒頭の教材名の下に1つ、また、教材文の終わりに「学びの道しるべ」として、3つ示している。</p>
	観点2	<p>問題解決学習を取り入れた工夫では、教材文の終わりに「学びの道しるべ」のコーナーを設けている。【2年P22】</p> <p>体験的な学習を取り入れた工夫では、直前の教材に関連した体験的な学習を促すページを設けると共に、動作や演技に関するマークを該当ページに示している。【3年P99】</p>
	観点3	<p>分量は、B5版202～218ページある。教材数は、Cが43教材、その他は、A21, B20, D21と配分されている。</p> <p>現代的な課題等を踏まえ、いじめ問題を直接的に扱った教材といじめを許さない心の育成を間接的に支えるための教材を、コラムページを組み合わせているユニットを設け、体系的に配置している。</p> <p>【1年P40～55】</p>
	観点4	<p>巻頭には、各学年、「道徳科で学びを深めるために」を見開き2ページで示している。巻末には、各学年「都道府県にゆかりのある人物と、その言葉」を6ページと「これからを生きるみなさんへ」を1ページ示している。教材の内容を理解させる工夫として、「学びの道しるべ」、「問い」「やってみよう」等のマークを示している。</p>
	観点5	<p>考えを伝え合う活動の工夫は、巻頭「道徳科で学びを深めるために」の中に、話し合いの方法を示している。【1年P4,5】</p> <p>教材文の終わりの「学びの道しるべ」のコーナーに、話し合いを促す発問を示している。【1年P13】</p> <p>考えをまとめたり、振り返ったりする活動の工夫は、巻末に、毎時間の学習を通してためになったこと、勉強になったこと等の感想を記入する欄を設けている。</p> <p>【3年P190～191】【教材ごと】</p> <p>巻末に、心に残った教材や自分が成長したと思うこと等を記入する、振り返りのページを設けている。【3回分】</p>
38 光 村	観点1	<p>オリエンテーションのタイトルは、「道徳の授業を始めよう!」とし、見開き2ページに、4つの視点ごとに、1年間に学ぶ内容項目とともに「何を学ぶのか」、続く見開き2ページに、「どのように学ぶのか」を示している。発問は、教材文の終わりの「考えよう」のコーナーに、マークと共に「見方を変えて」で各1～2程度示している。</p>
	観点2	<p>問題解決学習を取り入れた工夫では、教材文の終わりに「てびき」を設けている。【2年P13】</p> <p>体験的な学習を取り入れた工夫では、直前の教材に関連した体験的な学習を促すページを設けている。【3年P25】</p>

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
	観点 3	分量は、B5版 197～205 ページある。教材数は、C が 41 教材、その他は、A29, B27, D27 と配分されている。現代的な課題等を踏まえ、複数の教材からなるユニット「いじめを許さない心について考える」を学年の前半に設け、目次に緑色の下線で示している。【1年 P30～41】
	観点 4	巻頭には、各学年「本書で学ぶ皆さんへ」を1ページ示している。巻末には、見開き2ページに各学年テーマ別教材一覧を示している。また、各学年、各分野で活躍している人のメッセージを見開き2ページで示している。教材の内容を理解させる工夫として、「考えよう」、「見方を変えて」、「つなげよう」「深めたいむ」等のマークを設定し、問いを「・」で示している。
	観点 5	<p>考えを伝え合う活動の工夫は、巻頭「道徳の授業を始めよう！」の中に対話のポイントを示している。【1年 P8, 9】</p> <p>「深めたいむ」のページに、話し合いを促す発問をしている。【1年 P34～35】</p> <p>考えをまとめたり、振り返ったりする活動の工夫は、巻末折り込みに、毎時間の学習を通して考えたことや感じたこと等を振り返り記録する折込を設けている。</p> <p>また、巻末に自分の将来を想像し、人生目標を年表に書く欄「人生目標年表を書こう」を設けている。【3年 P186～187】【1回分】</p>
116 日 文	観点 1	<p>オリエンテーションのタイトルは、「道徳科で学ぶこと」「道徳科での学び方」とし、見開き2ページに、4つの視点ごとに、1年間に学ぶ内容項目を示すとともに、イラストや写真を使い、道徳科での学び方を「気づく」「考え、議論する、深める」「見つめる、生かす」の3つで示している。</p> <p>発問は、教材文の終わりに「考えてみよう」「自分に+1」で1つずつ示している。</p>
	観点 2	<p>問題解決学習を取り入れた工夫では、目次、該当ページ、巻末にマークを付けて示し、教材文の終わりに「学習の進め方」のページを設けている。【3年 P168～173】</p> <p>体験的な学習を取り入れた工夫では、直前の教材に関連した体験的な学習を促すページを設けると共に、動作や演技に関するマークを目次、該当ページに示している【3年 P18・P19】</p>
	観点 3	<p>分量は、B5版 198 ページと別冊 42 ページ、合計 240 ページある。教材数は、C が 46 教材、その他は、A18, B20, D21 と配分されている。</p> <p>現代的な課題等を踏まえ、いじめ問題を直接的・間接的に扱った教材をコラム「プラットホーム」をユニット化し、年間で複数配置している。</p> <p>また、いじめを扱う最初のユニットに扉ページ「『いじめ』と向き合う」は、目次に橙色の下線で示している。</p> <p>【1年 P28～49】</p>

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
	観点 4	<p>巻頭には、各学年「この教科書で学ぶテーマ」を見開き2ページで示し、「『いじめ』と向き合う」のテーマには囲みがある。巻末には、各学年、内容項目別教材一覧を示し、テーマや教科等との関連等を示している。教材の内容を理解させる工夫として、「考えてみよう」、「自分に+1」、「プラットホーム」、「参考」、「わたしの生き方」等のマークを設定している。</p>
	観点 5	<p>考えを伝え合う活動の工夫は、巻頭「道徳科での学び方」の中に、学習の流れを示している。【1年 P3】</p> <p>教材文の終わりの「学習の進め方」のページに教材に、おける話合いを促す発問を示している。【1年 P26～27】</p> <p>考えをまとめたり、振り返ったりする活動の工夫は、<b>別冊</b>「道徳ノート」に、授業で学んだこと等について振り返る欄を設けている。【教材ごと】</p> <p><b>別冊</b>「道徳ノート」の巻末に、道徳の学習で印象に残ったこと等を記入する、保護者の記入欄付きの振り返りのページを設けている。【3回】</p>
224 学 研	観点 1	<p>オリエンテーションのタイトルは、「新しい扉を開く」とし、見開き2ページに、イラストや吹き出しを使い、考えを深めるステップを4つで示している。また、見開き2ページに4つの視点ごとに、1年間で学ぶ内容項目と教材名を示している。発問は、教材文の終わりに「考えよう」のコーナーに、マークと共に1～2程度示している。</p>
	観点 2	<p>問題解決学習を取り入れた工夫では、教材文の終わりに「深めよう」のページを設けている。【2年 P14, 15】</p> <p>体験的な学習を取り入れた工夫では、直前の教材に関連した体験的な学習を促すページを設けている。【3年 P61】</p>
	観点 3	<p>分量は、A B版 186～198 ページある。教材数は、Cが37教材、その他は、A24, B22, D22 と配分されている。⑥現代的な課題等を踏まえ、いじめ防止につながる教材を選定するとともに、いじめ防止につながる特設ページ「クローズアップ」「クローズアッププラス」を設けている。【1年 P115, P153】</p> <p>巻頭において、「いじめをなくすために」をテーマとした教材を示している。【1年 P24～27】</p>
	観点 4	<p>巻頭には、各学年の目次の前に「道徳で学ぶこと・考えること」を見開き2ページで示している。巻末には、各学年「心の四季」を1ページで示し、各学年、内容項目別教材一覧を4つの視点別で示している。教材の内容を理解させる工夫として、「考えよう」、「クローズアップ」、「クローズアッププラス」「深めよう」等のマークを設けている。</p>

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
	観点 5	<p>考えを伝え合う活動の工夫は、巻頭「新しい扉を開く」に、話し合う学習活動を提示し、「考えを深める4つのステップ」を示している。【1年 P2, 3】</p> <p>教材文の終わりの「深めよう」のページに「話し合おう」を設定し、教材における話し合いを促す発問を示している。【1年 P15】</p> <p>考えをまとめたり、振り返ったりする活動の工夫は、授業での取組や心に残った授業等を記録する、振り返りのページを設けている。【3年 P189～195】【4回分】</p> <p>巻末に、未来への自分に手紙を書く欄「未来への扉」を設けている。【3年 P187】【1回分】</p>
232 廣あかつき	観点 1	<p>オリエンテーションのタイトルは「自分を見つめよう」とし、見開き2ページに道徳の時間について5つの視点で示している。</p> <p>また、巻末の見開2ページ、4つの視点ごとに、1年間で学ぶ内容項目と教材名を示している。</p> <p>発問は、教材文の終わりに「学習の手がかり」というめあてとともに2～3、「考えを広げる・深める」として1～2示している。</p>
	観点 2	<p>問題解決学習を取り入れた工夫では、教材文の終わりに「考える・話し合う」のコーナーを設けている。【2年 P12】</p> <p>体験的な学習を取り入れた工夫では、体験的な学習を促す教材を掲載している。【3年 P69】</p>
	観点 3	<p>分量は、AB版 166～186ページと別冊 52ページ、合計 218～238ページ。教材数は、Cが36教材、その他は、A24, B21, D24と配分されている。</p> <p>現代的な課題等を踏まえ、いじめを直接的に扱った教材とともに、教材の学びを深める特集「thinking」を設けている。【1年 P41】</p> <p>「いじめ」を様々な内容項目の学習と関連させながら考える特集ページ「いじめを許さない 私たちの心」を設けている。【1年 P174～175】</p>
	観点 4	<p>巻頭には、各学年、「一 道徳の時間とは一」を見開き2ページで示している。巻末には、各学年、4つの視点で色分けをし、内容項目ごとに、掲載している全ての教材名を示している。教材の内容を理解させる工夫として、「考える・話し合う」、「学習の手がかり」、「考えを広げる・深める」、「thinking」等のマークを設定している。</p>

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
	観点5	<p>考えを伝え合う活動の工夫は、巻頭「自分を見つめようー道徳の時間とはー」の中に、話し合いのポイントを示している。【1年P2, 3】</p> <p>教材文の終わりの「考える・話し合う」のコーナーに、「学習の手がかり」「考えを広げる・深める」を設定し、教材における話し合いを促す発問を示している。【1年P5】</p> <p>考えをまとめたり、振り返ったりする活動の工夫は、別冊「中学生の道徳ノート」の巻末に、心に残っている授業の記録を書く欄を設けている。【3年P44】【3回分】</p> <p>別冊「中学生の道徳ノート」の巻末に学習の記録を書く欄を設けている。【3年P26～43】【36回分】</p>
233 日 科	観点1	<p>オリエンテーションのタイトルは「道徳科って何を学ぶの?」とし、見開き2ページに4つの視点ごとに内容項目を、多様な考えを知るための6つの方法を示している。また、1ページに、教科書の使い方を5点示している。</p> <p>発問は、教材文の終わりに「考え、話し合ってみよう そして、深めよう」と表示し、1～3示している。</p>
	観点2	<p>問題解決的な学習ができるよう、教材文の終わりに「考え、話し合ってみよう、そして深めよう」のコーナーを設けている。【2年P15】</p> <p>体験的な学習を取り入れた工夫では、体験的な学習を促す教材を掲載している。【3年P56・P57】</p>
	観点3	<p>分量は、B5版194ページある。教材数は、Cが47教材、その他は、A20, B23, D21と配分されている。</p> <p>現代的な課題等を踏まえ、いじめを正面から取り上げている教材と生命尊重への学びをより深める教材を複数選定している。</p> <p>【1年P47～54, P104～107, P162～165】</p>
	観点4	<p>巻頭には、各学年、「道徳科って何を学ぶの?」を見開き2ページで示している。</p> <p>巻末には、各学年、「学習指導要領対応表」とし、4つの視点で色分けをし、内容項目ごとに、全ての教材名を示している。</p> <p>教材の内容を理解させる工夫として、「考え、話し合ってみよう そして、深めよう」等のマークを設定している。</p>
	観点5	<p>考えを伝え合う活動の工夫は、巻頭「道徳科って何を学ぶの?」の中に、話し合いのポイントを示している。【1年P4, 5】</p> <p>教材文の終わり「考え、話し合ってみよう そして、深めよう」のコーナーに、教材における話し合いを促す発問を示している。【1年P25】</p> <p>考えをまとめたり、振り返ったりする活動の工夫は、巻末に、1年間の成長を振り返るページを設けている。まとめとして「3年生の心の成長を振り返りましょう」を内容項目ごとに設けている。【3年P190】</p> <p>巻末に、3年間の道徳の授業について振り返るページ「私の道徳記録」を設けている。【3年P191】【1回分】</p>